

一〇 「ブラジル」移民関係雜纂.....	三四七
一一 墨国ニ於テ本邦漁業会社所属船舶抑留関係一件.....	三九三
一二 露国革命前ノ内政関係雜纂.....	四〇九
一三 露国革命関係一件.....	四三四
一四 「メキシコ」革命動乱関係一件.....	六六四

附録 日本外交文書大正六年第一冊日附索引

事項一 米国移民法制定及修正一件

一 一月九日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

國務長官移民法案ニ関シ兩院協議会ニ於テ我

申出説明及移民法妥協案可決ノ件

附記 大正五年十二月三十一日在米国佐藤大使発本

野外務大臣宛電報第二二七号

移民法案ニ関シ國務長官ト会谈ノ件

第六号 (一月十日接受)

往電第二二七号ニ関シ一月六日國務長官移民法案兩院協議
会ニ臨ミ更ニ帝國等ヨリ申出ノ異議ニ就キ陳述スル所アリ
タル由ナルカ右協議会ハ一月八日再び会議ヲ開キ上院通過
案ニ多少ノ修正ヲ施シタル後兩院ニ報告スヘキ妥協案ヲ可
決セル由右修正ノ要点ハ第一往電第二〇三号報告上院修正
全部削除第二現行法律条約取極云々ノ Phean 追加規定全
部削除シソノ代トシテ八頁十八行 North ノ次ニ

, and no alien now in any way excluded from or pre-
vented from entering United States shall be admitted

to United States ヲ挿入第三 white persons 云々ヲ削除
シソノ代ニ西部西伯利ヲ入国禁止区域ヨリ除外スルタメ七
頁十九行 Greenwich ノ次ニ and south of fiftieth
parallel of latitude north ヲ挿入第四第四十八条実施期
ヲ千九百十七年七月一日ト改ム

(附記)

大正五年十二月三十一日在米国佐藤大使発本野外務大臣宛電報
第二二七号

移民法案ニ関シ國務長官ト会谈ノ件

第二二七号 (一月一日接受)

貴電第一二二五号御訓示ニ遵ヒ三十日國務長官ヲ訪問シ懇談
シタル処同官ハ我異議ノ諸点ヲ諒トシ早速尽力スヘキ旨約
サレタリ尤從來ノ例ニ依ルモ労働務省及議會側ハ國務省ノ
意ニ遵ハザルヘキ虞アルヲ以テ未タ必ズシモ樂觀シ難シ尚
貴電末段大統領カ再ヒ veto スルヤ否ヤニ関シテハ國務長
官ハ明言ヲ避ケタルモ前來ノ行懸上大統領ハ veto スルナ

一 米国移民法制定及修正一件 二 三 四

ルベク而シテ議會ハ更ニ三分ノ二以上ノ多数決ヲ以テ之ヲ成立セシムヘシト予想セラル

註 本野外務大臣発佐藤大使宛往電第一二五号ニ付テハ日本外交文書大正五年第一冊六八文書参考

二 一月十日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法妥協案ノ修正箇所報告ノ件

第八号

往電第六号報告以外兩院協議会ニ於テ上院案ニ加ヘタル修正注意スヘキモノ左ノ通

(一)下院案十一条Aノ代リトシテ労働務長官ハ米国諸港ト外国トノ間ニ移民ノ輸送ニ従事スル船舶ニ移民局検査官ヲ派遣搭乘セシメン為メ國務省ノ手ヲ経テ關係外国ト談判ヲ開始スヘキ権限ヲ附与セラル云々ノ新规定ヲ挿入ス

(二)客年十二月十六日付送付上院通過ノ上院修正(三)ハ其採採用(四)ハ三七頁一行 that they must come 迄削除ノ上採用

(三)同上修正(三)ニハ下院案復活但十五行 and shall not declaration intention 云々ハ削除

二

尚各協議会案ハ一月八日直ニ上院本會議ニ報告 Stone 等ヨリ読方試験条項ニ付異議ヲ述ヘ反对アリシモ五十六対十票ニテ可決ス下院ハ協議会案ヲ来一月十一日付議スル由

三 一月十一日 本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

移民法妥協案ノ或字句ヲ削除スル様國務長官

ニ尽力懇囑方訓令ノ件

第八号

貴電第六号ニ関シ Phelan 追加規定ヲ削除シ其代リトシテ挿入セラレタル and no alien 以下ノ字句ハ紳士協約ノ場合ヲ予想スルニ非ザレハ事実上適用ナキモノト解スルノ外ナク從テ帝國政府力從來異議ヲ唱ヘタル趣旨ハ依然存在スル次第ニ付貴官ハ至急國務長官ニ面会シ右削除ニ付更ニ尽力方御懇囑ノ上結果回電アリタシ

四 一月十四日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國兩院協議会移民法妥協案ノ或字句削除ノ

要望ノ困難ナル事情稟申ノ件

第一〇号

貴電第八号ニ関シ兩院協議会妥協案ハ咄嗟ノ間ニ纏マリ往電第八号ノ通り既ニ上院ヲ通過シ下院モ將ニ通過セントスル際ニテ最早ヤ部分的修正ヲ容ルルノ余地ナキニ付貴電御訓示ノ次第ハ遺憾ナガラ之ヲ実行スルコト難ク假令之ヲ実行シ得ヘシトスルモ本件ニ関シテハ篤ト御考慮ヲ煩ハサザルヲ得ズ即チ過般ノ上院修正ニ対シテハ往電第二二七号ノ通り逐一異議ヲ申入レ國務長官モ之ヲ諒トシ尽力セル結果漸ク兩院協議会ニテ大体我主張ヲ貫徹シ得タル次第ニテ行政部ガ世論ノ湧起セザル内ニ迅速且巧妙ニ妥協案ヲ成立セシメタル苦心ハ当方ニ於テモ之ヲ酌取ラザルベカラズト信ズ而シテ no alien 云々ノ文句カ結局紳士協約ヲ指シタルモノノ如キハ貴論ノ如キモ其ノ規定広汎ニシテ表面現行法中嚴格ナル規定ノ効力ヲ新法ニ於テ依然維持スルモノトモ解釈シ得ヘク殊ニ agreement 等ノ文字ヲ現ハシ具体的ニ協約ヲ支持スルヲ避ケ單ニ現在入国シ得ザル者ハ依然入国シ得ズト云フニ止マルヲ以テ討議ノ沿革の推測ニ依リ紳士協約タルヲ暗示スル外規定自体ニ於テ直ニ協約ヲ意味スルモノト云ヒ難ク之ヲ以テ國務長官ニ迫ルモ其ノ論拠比較的薄弱ニシテ行政部ガ立法部ニ対シ之カ削除ヲ勸奨スルニ困

難ヲ感ズベク又之ヲシモ削除スベシト強説スルニ於テハ太平洋岸議員等ハ却テ奇貨措クベシト為シ更ニ紛糾ヲ醸成スルヤモ計リ難ク這般ノ情勢ハ前來屢々稟報セシ処ニ依リ本省ニ於テモ御了得ノコトト察セラル從テ右 no alien 云々ノ文句ヲ全然削除スルコトカ完璧ノ措置ナルハ本使ニ於テモ万々心得居タルモ何カノ文句ヲ以テ排日派議員ニ幾分ノ花ヲ持タセ行政部ノ苦衷ヲ無ニセザル為ニハ從來ノ諸案ニ比シ規定最平凡ニシテ從テ最弊害尠カルベキ今回ノ no alien 云々ノ如キハ我慢セザルヲ得ザルト信ジ之ヲ默過スルノ已ムヲ得ザルヲ感ジ居タル次第ニ付此辺ノ表裏ハ篤ト御推察ヲ仰キタシ尚ホ万一右文句ヲモ尚不可トセラレ之カ削除ヲ要望セラルルニ於テハ今日ノ場合大統領ノ Veto ヲ請フノ外合法的ニ救済スルノ途ナキ処右ハ事態重大ナルヲ以テ斯ル処置ヲ執ルヘシトセハ其旨御訓令アルト共ニ之ヲ説明スヘキ理由ヲモ詳細御垂示アル様致シタシ

五 一月十六日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法妥協案下院ノ修正ノ為兩院協議会再附

託ノ件

第一号

往電第八号末段ニ関シ下院ハ予定ヨリ一日ヲ延期シ一月十二日協議会案ヲ附議シ居タルガ紐育州選出「ベンネット」「マサチューセツツ」州選出 Gardner 等ヨリ協議会ニ於テ実施期限ヲ上下院両案ヨリモ延長シタルコト両院案關係条項何レヨリモ適用範圍広キ no alien 云々ノ規定ヲ挿入セルコト(「ベンネット」ハ本規定ハ其目的紳士協約ニ依リ現在入国ヲ制限セラルル一切ノ移民ノ外例ヘバ公費負担トナル虞アリ又ハ伝染病ニ罹リ居ルカ為メ入国拒絶ヲ受クルモノ等ニモ關係シ彼等ハ本規定ノ為メ再ヒ入国ヲ企テ得ザルニ至ルベシト主張セリ)竝第十一条(a)ニ於テ労働務長官ニ關係外國ト談判ヲ開始スル權限ヲ附与セルコトハ議事規則上協議員ノ權限ヲ逾越セルモノナリトシ協議会ヘノ再附託ヲ主張シタルカ右主張ハ上院ノ既ニ可決シタル協議会案ヲ再ヒ協議会ニ附託スル次第ニテ從來殆ト絶無ノ例ニ属スルカ故ニ種々ノ議論出タル後結局「バーネット」委員長自カラ両院協議会再附託ヲ動議シ右動議ハ異議ナク成立セリ

六 一月十六日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國移民法妥協案ニ関シ紳士協約ノ実質ニ均シキ条項挿入ニ対スル我異議ニ付國務長官ニ申入ノ件

第一二号

往電第一号ノ如ク下院ニ於テ意表外ノ処置ニ出デタル理由ニ付テハ大統領ヲ窮地ニ陥レザランタメ三月四日閉会迄移民法案ノ討議ヲ引延シ結局未成立ニ終ラシメントスル行政部味方議員ノ策略ナリヤ將「ベンネット」氏等カ表面上主張スル如キ事情ノタメナルカ其内情ニ付テハ内探中ナルガ本件下院討議中協議員ノ一人タル加州選出「ヘイス」ハ no alien 云々ノ規定カ採用セラレタル理由トシテ「上院案ニテハ日本労働者ノ入国ヲ紳士協約ニ譲リシカ下院側協議員ハ右ノ如ク紳士協約ノミニ依頼スル時ハ何等カノ事情ノタメ該協約カ廃棄セラルルト同時ニ日本ノ労働者入国ノ途開カルルニ至ルベシトテ遂ニ右紳士協約消滅ノ場合ニ備フルタメ上院案ノ後ニ「ノ、エリエン」云々ノ条項ヲ附記スルコトセリ」ト説明シ下院側ニ於テ依然トシテ紳士協約

サレタリ

七 一月十七日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法妥協案ノ修正ニ関シ國務長官ト懇談方訓令ノ件

第一五号

貴電第一〇号ニ関シ貴官ハ本件交渉ヲ以テ國務長官尽力ノ結果大体我主張ヲ貫徹シ得タルモノトセラルルモ熟々 no alien 云々ノ新規定ヲ考查スルニ所謂紳士協約ヲ其假法律ノ実質トシタルニ均シク仮ニ該協約廢滅ノ場合アリトスルモ該新規定ノ存在スル限り該協約ニ伴フ制限ハ依然トシテ存在スル儀ナルヲ以テ貴電第二〇一号ノ Phelan 案ニ比シ一層我方ニ取り不利益ナルハ勿論右協約成立ノ根本精神ニ背馳スルモノト認メラル然ル所貴電第一一号ニ依レハ本案ハ幸兩院協議会ニ再附託トナリタル儀ニ付貴官ハ此際前頭新規定ノ全部削除方ニ付更ニ國務長官ト懇談ヲ遂ケラレ我要求ヲ貫徹スル様御配慮相成タシ若シ右懇談ノ結果同長官ニ於テ充分努力セラレタル後万一ニモ該規定全部削除ノ遂行到底見込ナシトスヘキ事情生スルカ如キ場合ニハ已ムヲ

得サルニ付妥協ノ第一案トシテ貴電第二〇九号(註²)末段貴見ノ通り Phelan 案ヨリ Agreement ノ一字ヲ削除セシムルコトニ協議セラレタク若シ又此案ニシテ尚ホ交渉纏マラサレハ第二案トシテ今回ノ追加規定ヲ That nothing in the provisions next foregoing shall be construed to affect any alien now in any way excluded from or prevented from entering the United States (但シ場合ニ依リテハ in the provisions next foregoing ヲ in this Act トスルモ差支ナシ) ト修正セシムルコトニ御協議相成タシ將又本件ハ法案議會通過前ニ我目的ヲ達スル様措弁スヘキハ申迄モナキ所ナルニ付貴電第一二号後段中新議會ニ於テ本規定削除云々トアルハ移民法案カ本期議會ニ不成立ニ終リタル場合ヲ前提トシテ國務長官ニ申入レラレタルモノト認メラル為念申添フ

註¹ 日本外交文書大正五年第一冊六〇文書

2 同右六七文書

八 一月十八日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案可決及我方ノ抗議ニ対スル國務長官

九 一月十九日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案ニ関スル下院ノ討議模様報告ノ件

第一八号

往電第一六号ノ通一月十六日下院ニ於テ協議会案カ採用セラルルニ方リ「ペンネット」ヨリ往電第一一号報告ノ理由ニ依リ協議会カ no alien 云々ノ規定ニ付テモ修正ヲ加ヘザリシヲ攻撃シ斯クテハ「ヘース」前日説明ニ鑑ミルモ(往電第一二号参照)日本政府ハ再ヒ強硬ナル抗議ヲ提出スヘシト述ヘタルカ之ニ対シ「ヘース」ハ協議会採用ノ該規定竝其他本法案何レノ箇所ニモ日本人又ハ日本移民ニ付毫モ言及スル所ナク日本移民ハ從來ノ如ク日米間ノ協約ノ定ムル所ニ讓ルコトトセリ素ヨリ太平洋岸人民ハ下院原案ノ存置ヲ熱望セシモ右字句ハ日本人ノミニ關係スルモノト日本カ思考セシカ故ニ協議会ニ於テハ其性質甚タ一般的ニシテ且日本トノ協定ニ何等影響ヲ及ホサザル一条項ヲ採用セリ太平洋岸人民ハ東洋人ノ多数入國ニ反對スルカ故ニ強硬ナル条項ノ挿入ヲ好ミシモ合衆国他地方ノ人民及殊ニ行政部ノ希望ニ応セムカ為何レノ國何レノ人民モ正当ニ反

一 米國移民法制定及修正一件 九 一〇

ノ見解ニ付報告ノ件

第一六号

往電第一一号末段ニ関シ移民法案協議会ハ早速一月十三日會議ヲ開キ下院ニ於テ異議アリタル実施期ノミニ付修正ヲ加ヘ之ヲ上院案ノ通一九一七年五月一日ト改メ直ニ其旨兩院ニ報告上院ハ即日異議ナク之ヲ承認シ下院ニ於テハ一月十六日右修正協議会案ヲ再議ニ附シタルカ票決ヲ用ヒスシテ之ヲ可決シタル趣即刻情報ニ接セリ從テ移民法案ハ一兩日中ニ大統領ノ裁可ニ附セラルヘシ是ヨリ先本使ニ於テハ國務長官ノ求メニ依リ往電第一二号本使カ同長官ニ対シ述ヘタル要領ヲ書附ケニシテ送付シタルカ同長官ハ之ニ回答シ右書附ケ写ハ兩院關係委員長ニ向ケ協議会ノ考量ニ上サレタキ旨附言シテ交付セルモ國務長官ニ於テハ關係条項カ協約ニ直接間接トモ何等言及セス又其ノ性質一般的ニシテ何レノ外國人ヲモ區別セサルモノナルニ鑑ミ日本政府ニ於テ之ニ異議アリトノ本使ノ意見ニ同ズル能ハサル旨一月十五日附覽書ヲ以テ申越セリ

對スルノ理由ナキ文字ニ修正セリ又本案ハ國務省トモ審議ノ後定メタルモノナルカ故ニ何レノ國ノ條約協定ニモ違反スル所ナシ云々ト答弁シ「バーネット」委員長モ日本ニ於テ正當ナル反對理由ナキ様修正セラレタル旨ヲ繰返セリ尚「ヘース」等カ斯ノ如ク前日ノ所述ト異ル弁明ヲ為スニ至レルハ國務省辺ヨリノ注意ニ基キタルモノト思考セラル

一〇 一月十九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案ニ関スル我方ノ抗議ニ対シ國務長官

回答ノ要点電報ノ件

第一八号ノ二

(一月二十日接受)

往電第一六号末段國務長官回答ハ將來ノ為重要ナル關係アリト思考スルニ付原文中主要ノ点左ニ電報ス

Secretary of State, however, is unable to share opinion of Ambassador that amended clause to which reference is made should be considered objectionable by Japanese Government, since no reference, direct or indirect, is made to the Agreement, and the legislation is general in character and discriminates against no nationals.

一一 一月二十日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法ニ関シ國務長官ニ対シ異議申入方訓令

ノ件

第二二号

貴電第一六号ニ関シ國務長官ハ同電末段記載貴官ニ送越セル覚書中 no alien 云々ノ条項ハ紳士協約ニ直接間接共同等言及セズ又其性質一般のニシテ何レノ外国人ヲモ區別セザルモノトスルカ如キモ現行米國法令上入國ヲ禁止サレ居ル外国人ニ就テハ本案中夫々規定ヲ存スルニ付 no alien 云々ノ規定ハ實際ニ於テハ所謂紳士協約ニ依リ渡米ヲ禁止セラレ居ル日本人ヲ指スモノニシテ之ニ依テ紳士協約ノ効力ヲ補充確認シ該協約ノ存否ニ拘ラズ永遠ニ日本移民ノ入國ヲ禁止スル趣旨ニ出デタルモノト解スルノ外ナシ果シテ然ラハ右新規定ハ本件交渉ノ沿革ヲ無視シ且所謂紳士協約ナルモノノ成立セル根本ノ趣旨ヲ滅却セシムルコトナリ帝國政府カ多年誠意ヲ以テ実行シ來レル自制的措置ハ茲ニ事實上無用ニ帰スルニ至レルモノト謂ハザルベカラズ依而貴官ハ此際至急國務長官ニ対シ我異議ノアル所ヲ申入レラ

レ若シ其結果國務長官ニ於テ no alien 云々ノ規定ハ帝國政府ノ自制ヲ基礎トセル邦人渡航制限ノ如キ事實ヲ包含スルモノニ非ズトノ解釈ヲ採リ居ル次第ナルニ於テハ其了解ヲ書面ニテ取付ケ置ク様御配慮相成タシ貴電第一八号モ接到セリ

一二 一月二十日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

紳士協約ト移民法案トノ関連ニ関シ意見具申

ノ件

第一九号

貴電第一五号ニ関シ貴電ニ於テ協約廢滅ノ場合アリトスルモ新規定ノ存在スル限り協約ニ伴フ制限ハ依然トシテ存在ス云々トアルハ本使ノ諒解ニ苦ム所ナリ元來紳士協約ハ日本カ任意ニ移民ノ渡航ヲ制限スルモノニシテ從テ假令協約違反ノ移民カ米國ニ入國セントスル場合ニ於テモ米國ハ協約違反ノ理由ヲ以テ其ノ特定ノ移民ノ入國ヲ拒絕スルヲ得ザルノミナラズ事實上之ヲ拒絕シタルコトナク常ニ公共費負担伝染病患者其他移民法上ノ規定ニ照ラシテ拒絕スルモノニシテ是レ紳士協約カ普通ノ条約約束ト異ル重大ナル点

ニシテ本邦ニ取り最有利ナル立脚点ナルト共ニ排日論者カ協約ノ不完全ヲ唱フル重ナル論拠ナリトス從テ米國ニ於テ將來如何ニ協約ノ性質ヲ曲解スルコトアルモ日本政府トシテハ飽迄日本人ハ現在ニ於テ法規上又ハ協約上其他ノ理由ニ拠ルモ米國入國ニ関シ何等区別的ニ prevent 又ハ exclude セラレ居ルモノニアラズト主張スルヲ正当トシ又斯ク主張セザレハ却テ貴電ニ所謂協約成立ノ根本精神ニ背馳スルモノト云ハザルヲ得ズ勿論一部加州議員等ハ該規定ニ對シ斯ノ如キ解釈ヲ附ケントセルカ如キモ彼等ノ目的ハ専ラ選挙区民ニ對スル申訳ニ出デタルモノニシテ國務省ニ於テ斯ノ如キ意向ナキハ往電第一六号及第一八号ニ拠ルモ明カニシテ苟モ虚心坦懷該規定ヲ解釈セバ貴電ノ如キ懸念ナシト認メラルルノミナラズ若シ其ノ懸念アリト認ムルニ於テハ日本ハ前述ノ如キ有利ナル立脚地ヲ自ラ拋棄シテ米國ガ移民法上ノ一般規定以外ニ協約上日本移民ノ入國ヲ制限拒絕スヘキ正当ナル權利ヲ有シ其權利ヲ從來行使シ居タリト容認セザルヲ得ザル結果トナルヘク斯ノ如キハ本省ノ真意ニアラザルヘシト思考セラル勿論將來紳士協定カ仮ニ廢滅スル場合ニ於テ如何ナル不測ノ影響アルベキカハ誰

シモ確定シ難キモ該規定ガ自動的ニ協約ニ伴フ制限ノ効力ヲ永続セシムルモノトハ法文上解釈シ難ク又其ノ解釈ノ下ニ異議ヲ申入ルルハ前述ノ理由ニ依リ頗ル不利ナリト信ズ右ハ本省ニ於テ十分御同意ノコトト信シ往電中ニハ態ト之ニ言及スルヲ避ケタル次第ナルモ今回ノ貴電ニ依リ本省ノ御意見ト本使ノ意見トノ間ニ斯ル重要ナル差違アリテ本使ノ微衷ハ徹底セザルヤノ感起リタルニ依リ移民法案ノ運命モ尚全然確定シタリト云ヒ難キ今日ノ場合ニ付將來ノ為往電中補足旁卑見申進ズ尚貴電末段新議會云々トアルモ当方ヨリハ新協議會(即チ conference)ト打電シタル筈ナリ

一三 一月二十二日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案ニ関スル我方異議ノ理由ニ付請訓ノ

件

第二〇号

貴電第二二号ニ関シ本件ニ對シ異議ヲ申入レ又ハ書面ヲ取付ケル義ハ本使ニ於テモ元ヨリ同感ナルモ只先般來貴電御垂示ノ理由ヲ主張スルニ於テハ往電第一九号ノ如キ不利アルヤノ懸念アルニ付万一先方ニ於テ我申入レヲ承諾セザル

場合ニ於テモ紳士協約ノ性質ニ関シ我ニ不利益ナル言質ヲ残サザル程度ノ理由ヲ説明致シタシト思考ス依テ往電第一九号御考慮ノ上右理由ヲ如何ニ説明スヘキヤ更ニ御訓示アリタク貴電末段ノ措置ハ右御訓示ヲ待テ取り運フコトト致シタシ

一四 一月二十二日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法案ニ関シ新規定削除ノ余地ナキ場合ニ

対スル措弁方訓令ノ件

第二四号

貴電第一九号ニ関シ no alien 云々ノ新規定ノ文理的解釈ハ暫ク擱キ立案者ノ精神ハ往電第二二号ノ通り now in any way ナル包括的規定ノ下ニ紳士協約ニ依ル我移民制限ヲモ含マシムルニアルモノト認ムルノ外ナク果シテ然ラハ紳士協約ノ存否ニ拘ラズ日本移民ノ入国ヲ禁止スルノ結果ヲ生スヘキコト前電ニ述ヘタル通ナリ尤モ最早右新規定削除ノ余地ナキニ於テハ幾分ナリトモ右立案者ノ精神ヲ解釈スルニ基ツク結果ヲ防止セムカ為米國行政部ヲシテ本規定ハ紳士協約ニ係カル制限ノ如キモノヲ含ムニ非ズトノ見

ノニシテ右規定ノ中ニ紳士協約ニ依ル邦人渡米取締ノ事實ヲ含マシムルト云フカ如キ意思ハ毫モ之レ無キモノト信ス其ノ用語ニ就テ之ヲ見ルモ何等協約ニ refer スルコトナク又一般外人ニ適用スルコトナリ居ルコトハ國務長官覺書(貴電第一八号)後段説述ノ通ナリ乍去何分ニモ本規定ハ now in any way ノ字句頗ル広汎ナル為或ハ前記帝國政府ノ自制ニ依ル紳士協約ノ場合ヲ含メルモノト解セラルル眞ナキニ非ズ万一米國政府ニ於テ右ノ如キ解釈ヲ執ラルル場合ニハ帝國政府ニ於テハ右規定ニ対シ飽ク迄異議ヲ唱ヘサルヲ得サルコトハ申迄モナキ次第ナリ』云々トノ趣旨ヲ申入レラレ往電第二二号末段ノ趣旨ヲ國務長官ヨリ書面ニテ取付ケ置カルル様御取計相成タシ猶本案ノ法律トナルハ最早間モナキコトニ付國務長官ヘノ申入ハ至急御措弁アレ

一六 一月二十七日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案ニ対スル措置ハ同法案ノ運命確定ノ

上ノ事ト致シタキ旨國務長官談話ノ件

第二七号

貴電第二九号ノ件二十五日國務長官ニ懇話セル所同長官ハ

一 米國移民法制定及修正一件 一六 一七

解ヲ言明セシメ置クコト我将来ノ立場ニ有利ナリト思考スルニ付往電第二二号ノ趣旨ニ依リ至急御措弁アレ

一五 一月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法案ニ関スル我方異議申入ノ趣旨回訓ノ

件

第二九号

貴電第二〇号ニ関シ貴電第一九号ノ論旨ハ所謂紳士協約ヲ題目トセル帝國政府交渉ノ説明トシテ今日ノ如キ場合ニ之ヲ援用スルコトハ之ヲ避クルヲ妥当ナリト思考ス而シテ我主張ノ根本趣旨ハ帝國政府ニ於テ自制ヲ誠実ニ実行シツツアル事情ニ鑑ミ法文々面上ノ解釈ハ勿論精神ニ於テモ我誠意ニ reflect スルカ如キ規定ノ存在ハ到底容認スル能ハストスルニアルコトハ屢次ノ往電ニテ既ニ十分了得セラレ居ル儀ト思考ス尤モ國務長官ニ対スル応対ハ大体珍田大使ニ於テ採リタル方針ニ則リ先ツ立法者等ノ意思ヲ善意ニ解スト云フ立場ヲ採ルコトセラレタシ即チ『本規定成立ニ至ル迄ノ沿革ニ見テ其立案者ハ本規定カ日本人ニ適用スルモノナルコトヲ避ケンシタルハ善意的苦心ノ余ニ成レルモ

右ハ大体差支ナシト思ハルルモ同法案ノ運命尚不定ノ今日ニ於テ之ヲ措弁シ難キニ付本件ハ法案ノ成立確定ノ上ニテ改メテ商議スルコトニ致シタク尚大統領カ同法案ヲ裁可スルヤハ甚タ疑ハシト云ヘリ就テハ右不裁可トナリ尚兩院カ之ヲ override セザル場合ニハ同法案ハ來議會ニ於テ更ニ新ニ討議セラルヘク其ノ際如何ナル問題カ起ルヘキヤモ計リ難ク尚前途不定ノ今日ニ付御訓示ノ件ハ國務長官ノ言ノ如ク法案ノ運命確定ヲ待ツノ外ナシト思考セラル

一七 一月二十九日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法案ニ関シ記録上ノ必要モアルニ付我方

異議ノ趣旨ヲ書面ニテ申入及國務長官ノ回答

取付方訓令ノ件

第三六号

貴電第二七号ニ関シ貴官カ no alien 云々ノ解釈ニ関シ國務長官ニ対シ口頭ヲ以テ往電第二九号括弧内ノ趣旨ヲ申入レラレタルコトト存セララルル処果シテ然ラハ同規定ノ解釈カ極メテ重要ナルハ屢次ノ電報ノ通ニテ本法案カ法律トナルト否トニ不拘記録上ノ必要モアルニ付御見込ニ依リ貴官

御申入ノ趣旨ヲ適當ナル形式ノ下ニ書面ヲ以テ國務長官ニ
申送ラレ其回答ヲ取付ケ置アレ

一八 一月三十日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國大統領移民法案ニ対シ拒否權行使ノ件

第三一號 (一月三十一日接受)

大統領ハ二十九日移民法案ヲ Veto セリ

一九 二月五日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國下院ハ大統領否認ノ移民法案ヲ再通過ノ

件

第三五號 (二月六日接受)

二月一日下院ハ大統領ノ否認シタル移民法案ニ関シ読書試
驗ノ規定ニ付可否ノ議論ヲ戰ハシタル後二八七対一〇六即
チ三分ノ二以上ノ多数ニテ之ヲ再通過セリ

二〇 二月六日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案ニ関スル我異議ノ書面申入及先方回

答ニ付國務省側ト内協議ノ件

外務大臣子爵 本野一郎殿

去一月十九日付公第二三號ヲ以テ報告致置候通り移民法案
ハ去一月十七日大統領ノ裁可ニ付セラレ候処大統領ハ既ニ
教育試験規定ニ付可否ノ議論ヲ充分承知セリトノ理由ニ依
ルカ今回ハ本案ニ付キ何等公衆ニ対スル意見聴取ヲ為サズ
又世論モ戰爭關係ノ諸事件ニ付キ没頭セル為メ比較的本案
ニ付キ余リ議論ヲ為サズ殆ント予定ノ行動ノ如ク去一月二
十九日大統領ハ下院ニ対シ本案ハ米國立國ノ趣旨ニ背ケル
教育試験ヲ包含スルカ為メ並ニ右試験規定ノ免除ヲ為スニ
ハ移民ノ本國ガ或種宗教上ノ迫害ヲ該移民ニ適用シ居ル
ヲ条件ト為スガ故ニ其結果米國ハ当該外國トノ間ニ外交上
ノ紛議ヲ生スル虞アルカ為メ之ヲ否認ストノ教書ヲ通達ス
ルニ及ヒ候

右ニ対シ下院移民委員長「バーネット」ハ本案反對論者ノ
急先鋒「サバス」議員ト協議ノ上二月一日ヲ期シ本案再通
過ニ関スル決票ヲ行ハンコトヲ定メ同日ニ至リ往電第三五
號ノ如ク再通過賛成者二八七票、不賛成一〇六票、可否ノ
意見ヲ表セズ表決ニ加ハリシモノ三名即チ法定必要数表決
者ノ三分ノ二以上ヨリ二十三名ノ多数ニテ大統領ノ否認ヲ

第三八號

貴電第三六號ニ関シ二月一日國務長官代理ニ面会ノ節我政
府ニ於テハ將來ニ於ケル記録ノ為メ no alien 云々ノ規定
ニ関シ往電第二七號國務長官面会ノ節希望シタル通りノ書
面ノ交換ヲ案ノ成否ニ拘ラズ之ヲ熱望シ居ル次第ヲ繰返シ
尤モ該書面ノ形式文案ニ付テハ予メ國務省員トノ間ニ内協
議ヲ重ネシムル様致シタシト述ヘタルニ同代理ニ於テハ兎
ニ角右様ノ内協議ヲ開始スルコトニ異存ナシトノコトナリ
シヲ以テ二月二日当方ノ文案ヲ調成シ「ウイリアムス」迄
送附シ右ニ対シ異存ナキ場合ニハ先方ヨリ送ルヘキ回答案
ノ内示ヲ受ケタキ趣申込マシメ尚本件兩文案妥協後ト雖公
式交換以前ニ其假一度本省ニ具申シ其賛認ヲ得タキ旨附言
セシメタリ

二一 二月八日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

移民法案成立ニ至レル経緯ニ関シ報告ノ件

機密第一五號 (三月八日接受)

大正六年二月八日

在米特命全權大使 佐藤愛磨(印)

超覆スルニ至リ候而シテ其後上院ニ於テモ二月五日同様
再通過ニ関スル議事ヲ開キ往電第四八號ノ如ク賛成者六十
二票、不賛成者十九票即チ三分ノ二ノ法定数ヨリモ八名ノ
多数ヲ以テ再ヒ大統領ノ否認ヲ超覆シ茲ニ於テ本案ハ憲法
第七條ノ規定ニ依リ大統領ノ不裁可ニ拘ラス法トシテ成立
ヲ見ルニ至リ候

前記上下兩院ニ於テ移民法案ヲ再通過セル際其討議ハ主ト
シテ教育試験規定ノ可否ニ存シタリシモ該規定ニ反對ナル
カ為メ本案ヲ否決セシメントスル議員ハ其目的遂行上単ニ
教育試験規定ノ非ヲ鳴ラスノミナラズ本案實施上他外國ト
外交上ノ難問題ヲ惹起スヘキヲ予見シ本案ニ反對スルモノ
有之タルカ殊ニ二月五日ノ上院議場ニ於テ「ミズリー」選
出民主黨議員「リード」「ウキスコンシン」選出同黨議員
「ハスチング」等ハ本案通過ハ日米間ニ外交上ノ難件ヲ發
生スルノ虞アルカ為メ外交多難ノ今日日本案ヲ否決スヘシト
唱ヘ就中「リード」議員ハ國務省三等次官 Long (此頃新
任ノ人) ヨリ聞キタル所ニ依レハ日本大使館ハ no alien
云々ノ規定中ノ in any way ナル字句ハ日本カ紳士協約
ニ依リ米國ヘノ移民ヲ制限シ居ル事休ヲモ包含スルモノト

解セラルル余地アリ為メニ将来ニ於テ誤解ヲ生スル虞アリトテ該規定ニ反対シ居レリトテ本案再通過ノ不可ナルヲ論シタルカ協議委員等ノ弁明ニ因リ益々執拗ニ本点ヲ論シno alien云々ノ規定ニ付キ日本ニ於テ強硬ナル異議ヲ有スルモノト思ハシムル言説ヲ致候而シテ之ニ対シ兩院協議會ニ於テ上院ヲ代表セル議員ハ交々弁明スル所アリ即チ「ロッヂ」議員ハ協議案ニテハ日本ノ反対ヲ緩和センカ為メ協定又ハ帰化資格云々ニ何等言及セズ只現時如何ナル方法即チ条約協約協定何レニ依ルトモexcludedセラルルモノハ本案成立後引續キ入国ヲ禁止セラルヘキヲ規定セリ從テ本規定ハ如何ナル人種ヲモ區別セス世界全体ニ適用セラハ日本ハ紳士協約ヲ何時タリトモ廃棄シ得ヘキモ廃棄ト同時ニ本規定ノ為現時右協約ノ為メ入国シ得ザルモノハ依然入国シ得ザルコトナルヘシト述ヘ同協議委員「ハーデック」モ該規定ハ何等紳士協約ニ關係ナシ唯日本カ該協約ヲ善意ニ実行セザルニ至リタル時ニ始メテ日本移民ニ適用ヲ見ルニ至ルヘシト述ヘ同委員長「スミス」モ本規定ハ日本カ紳士協約ヲ廃棄セザル限り日本人ニ適用ナシ又將來紳士協約ニ変更ヲ加フルノ必要到来セバ双方ニ満足ナル様本規

右移民法案成立ノ次第報告旁々申進候 敬具

二二 二月九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法案上院再通過ノ件

第四八号

(二月十日接受)

往電第三五号移民法案ニ関シ上院ハ六十二対十九票ノ多数ヲ以テoverrideセリ

註 右上院ノ再通過ハ二月五日行ハレタリ前掲二文書参照

二三 二月十二日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法ニ関スル國務省トノ文書交換ニ付國務

長官へ督促ノ件

第五二号

貴電第四四号ニ関シ二月七日國務省極東課員当館ヲ訪ヒ往電第三八号当方ヨリ提出ノ文案ハ同課ノ関スル限り異存ナキ旨竝右文書ノ交換ハ新移民法成立後ニ行ヒタク即チ該法律ハ上院再通過ノ日ヨリ十日目ニ相当スル来ル二月十六日ニ成立ヲ見ル次第ナルヲ以テ國務長官トモ相談ノ上来週中ニ交換文書ノ成案ヲ回答スヘシトノコトナリシカ本使ハ二

一 米国移民法制定及修正一件 二二 二三 二四

定ヲ修正シ得ヘシト陳弁致候

右ノ如ク上院協議員等カ公然議場ニ於テ該規定ハ日本カ紳士協約ヲ廃棄セントスル場合ニ備ヘタルモノナリトスル言説ヲ為スニ至レルハ將來ニ於ケル我立場上好マシカラザル所ナルト共ニ該規定解釈ニ関スル公文ノ交換ハ一層其必要ヲ見ル次第ナルハ勿論ノ義ニ有之候処國務省員ニ於テモ「リード」議員等ノ質問ニ関連シ協議員等ニ於テ右ノ如キ言議ヲ試ミタルハ寧ロ意外トシタルモノノ如ク「ボルク」参事官ノ如キモ「リード」議員ノ論議ニ付テハ何等承知スル所ナキ旨語リタル由ニ有之候又「リード」議員等ノ反対ハ國務省辺ノ意ヲ受ケタルモノナルヤ否ヤニ関シ極東課員ニ尋ネタルニ明白ナル答弁ヲ避ケ只僅少ノ差ニテ再通過ヲ遮ギリ得ル望ミ有之シカ故ニ國務省ニ於テ本案否決ニ出来ル丈ケノ尽力ハ為シタリト答弁致候由ナルモ國務省ニ於テモ前記上院協議員等ノ言説ニ動カサレズ從來ノ如ク該規定ノ文理上紳士協約ニ何等關係ナキコト明白ナリトスル意見ヲ維持セルモノノ如キカ故ニ本使ニ於テモ右上院議員等ノ言議ニハ余リ言及セズ交渉中ノ公文ノ交換ノ件ニ付キ今後一層尽力ヲ重ヌヘク候

月八日更ニ國務長官ニ面会シ文書交換ノ件ハ帝國政府ニ於テ甚タ重キヲ措ク所ナルヲ以テ移民法案ノ兩院通過ヲ見タル今日兎ニ角同官ニ於テ主義上異議ナキ旨確言セラルルヲ得ハ幸甚トスル所ナリト催促シタルニ國務長官ハ該文案ニ付テハ時局柄太多忙ヲ極メ未タ精読ノ暇ナキモ本件ハ大体差支ナキ旨答ヘラレタリ

二四 二月十九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

對米移民取締ト外務省令第一号ノ改正トノ関

連ニ関シ請訓ノ件

第六〇号

外務省令第一号ノ改正ハ對米移民取締ノ關係上日本政府ノ誠意ヲ示ス一端トシテ利用シタシト思料セラルル処右御異議ナクハ該改正ノ内容ヲ此際閣下ヨリノ機密訓令トシテ米國政府ニ通告スルト共ニ斯ノ如キ改正ヲ加ヘタル趣旨ハ各國ノ方策ヲ斟酌シ一般渡航者ノ取締ヲ目的トシタルハ勿論ナルモ尚對米移民取締ノ便宜ニ資セントスルノ意ヲモ含ミ居レル旨申添ヘ然ルヘキヤ何分ノ義御回訓ヲ乞フ

二五 三月二十日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法ニ関スル文書交換ニ付國務省案訂正方

交渉中ノ件

第一〇七号

貴電第八二号ニ関シ先方ノ回答案先日接受シタルモ内容ニ於テ少シク思ハシカラサル点アリ訂正方交渉シ置キタルカ元来本件ハ主義ニ於テハ疾クニ先方ニテ承認セル所ナルモ愈々之ヲ文書ニ現ハスニ当リ當國ノ如キ行政部ノ權威少ナキ國柄ニテハ可成控目ノ措辞ヲ用ヒントスル傾向アリ之ニ反シ當方ニテハ可成明確直截ナル措辞ヲ用ヒシメントセル為掛ケ合ニ多少手間取り居ル次第ナリ而シテ我訂正ノ趣意ニ対シテハ國務省十分了得シ居レルモ時節柄非常ニ多忙ヲ極メ居リ且労働務長官力過日來鉄道「ストライキ」問題ノ為旅行中ノコトニモアリ旁々尚最後ノ決定ヲ見ルニ至ラズ依テ可成取急キ決定ヲ与ヘラルル様督促中ナリ

二六 三月二十二日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法ニ対スル文書交換ニ関シ國務省トノ内

(別電I)

三月二十二日在米國佐藤大使発本野外務大臣宛電報第一一二号
移民法ニ対シ國務長官ニ提出ノ文書案

No. 112 Betsuden (三月二十四日接致)

I have the honor to acknowledge the receipt of your memorandum under date of January 15th, 1917, regarding immigration bill which has now become law and which contains the following clause:

(omission)

It is gratifying my Government learn that you are unable to share my opinion that the clause in question should be considered objectionable "since no reference, direct or indirect, is made to the Agreement and the legislation is general in characters and discriminates against no nationals."

Keeping in mind legislative history of bill, Imperial Government note that it bears ample evidence of the well-directed endeavours, on the part of legislators, to avoid reference to the so-called Gentleman Agreement, and they believe that the said clause ought not to be understood as affecting Agreement.

協議纏リタルニ付承認方稟請ノ件

別電一 同日在米國佐藤大使発本野外務大臣宛電報

第一一二号

移民法ニ対シ國務長官ニ提出ノ文書案

二 同右電報第一一三号

移民法ニ対シ國務長官ヨリ回答ノ文書案

第一一一号

往電第一〇七号ニ関シ本使ヨリ別電第一一二号ノ通文書ヲ提出シ國務長官ヨリ別電第一一三号ノ通回答ヲ得ルコトニ内協議纏マリタリ右ハ予テ御訓令ノ要旨ニ背カサル様度々交渉ヲ遂ケタル結果ナルニ付此俟御承認相成様致シタシ尚貴電第二九号中^(註)段(渡米取締ノ事実ヲ含マシムルト云フカ如キ意思)トアルヲ交換文書中ニ記載セシメント種々苦心シタルモ先方ニ於テハ立法者ノ意思ヲ付度シ又ハ法律ノ解釈ニ決定ヲ与フルカ如キ字句ハ成ルヘク之ヲ避ケントセルタメ遂ニ別電中記載ノ如ク not to be understood as affecting the agreement ト折合ヒタル次第ニテ此点ハ先方ノ承認スヘキ極度ナルニ付多少字句ニ不完全ナル所アルモ大体ノ精神ヲ御酌量相成様致シタシ何分ノ義至急返電ヲ請フ

註 前掲一五文書

However owing to the broad latitude of interpretation which such phrase as "now in any way" is open to, Imperial Government cannot quite relieve itself of apprehension that the self-imposed restrictions under the Agreement may somehow or other be held in future as being comprised in the provision in question, should the United States Government share this apprehension that the clause is susceptible of such interpretation, Imperial Government, true to attitude hitherto taken on the subject, feel constrained positively to protest at this moment against the existence of clause itself.

Accordingly I am instructed by my Government to request you, for the sake of the record, in replying to this Note and confirming what was stated in your Memorandum above mentioned, to state whether you concur in substance in view of Imperial Government set forth on the second paragraph this Note.

Sato

(別電II)

三月二十二日在米國佐藤大使発本野外務大臣宛電報第一一二号

一 米国民法制定及修正一件 二十

移民法ニ対シ國務長官ヨリ回答ノ文書案

No. 113 Betsuden,

(三月二十四日接受)

(並方ノ書翰ヲ大体繰返シタルモノニ付前略ス)

In reply I have the honor to confirm my statement made in Memorandum of January 15th, 1917, that I do not think clause to which your Note refers should be considered objectionable by Japanese Government, since no reference, direct or indirect, is made to Agreement, and legislation is general in character and discriminates against no nationals, and I have further the honor to concur in view of Japanese Government that legislative history of bill bears ample evidence of well directed endeavours on the part of legislators to avoid reference to so called Gentleman Agreement, and that clause in question is not to be understood as affecting Agreement. Sato

二七 三月二十五日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

移民法ニ關スル交換文書中改訂ヲ要スル部分

ニ付訓示ノ件

第八七号

貴電第一一一号御来示ノ交換文書中主要ノ点ニ於テ從來屢

二八 四月三日

在ホノルル諸井総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米国民新移民法規定ノ語学試験ハ写真結婚婦人

ニ適用ノ旨ハワイ移民局長言明ニ付稟請ノ件

第一二二号

四月三日日本官発在米大使宛電信第二号

米国民新移民法第三条學術試験ヲ写真結婚婦人ニ適用スルヤニ關シ特ニ当地移民局長ニ問合セタルニ同局長ニハ右婦人ハ到着ノ際ニハ未タ適法ノ妻ト見做サレザルヲ以テ法文ノ解釈上右試験ヲ執行スルコトニ決定セリト然ルニ該試験ハ探知ノ結果ニヨレハ頗ル簡單ナルモ当地ノ如ク無教育ナル労働者多数ヲ占メ自然其呼寄婦人ノ学力モ非常ニ低度ナルタメ過般移民局ニテ試験的ニ試ミタル所ニヨレハ通過ノ見込殆ントナカリシ趣ナレハ愈々實施ノ曉ニ於テハ多数ノ送還者ヲ見ルニ至ル虞アリ依ツテ此際其筋ヘ御交渉ノ上写真結婚婦人ニ之ヲ適用セザル様移民局ヘ訓令方御尽力ヲ請フ外務大臣ヘ電報セリ

二九 四月三日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

一 米国民法制定及修正一件 二八 二九

一八

々申進タル電訓ノ趣旨ニ叶ハザル所アリ貴官ニ於テハ右等ノ電訓ニ依リ帝國政府所存ノアル所ヲ迅ク御了得ノ義ト思考セラルルト同時ニ國務長官ニ於テモ貴電第二七号ニヨリ我カ主張ノ趣旨ヲ充分了得シ居ルモノト認メ居ル次第ニ付貴官ハ先方ニ対シ更ラニ我立場ヲ詳論シ充分ノ交渉ヲ遂ゲラレ往復文書中左ノ通り改訂遂行方御尽力アリタシ

(貴電第一一二号中第二項初段ニアル they believe that the said clause ought not to be understood as affecting Agreement ナル文句ヲ not to be understood as contemplating the Agreement within the purview of its application トスルコト

貴電第一一二号末段ニアル that clause in question is not to be understood affecting Agreement トアルヲ not to be understood as contemplating the Agreement within the purview of its application トスルコト

移民法ニ關スル交換文書ノ改訂ヲ國務省応諾ノ件

別電

同日在米國佐藤大使発本野外務大臣宛電報第一二五号

一二五号

移民法ニ關スル交換文書ノ改訂案

第一二四号

貴電第八七号ニ關シ更ニ其筋ト交渉ヲ重ネタル末御垂示ノ要点ハ先方ノ応諾スル所トナリ尚ホ從來協議済ノ説明的文句ヲ一層簡短ニシ別電第一二五号ノ通交換スルコトニ打合済ナルニ付右御承認アリタシ

(別電)

四月三日在米國佐藤大使発本野外務大臣宛電報第一二五号

移民法ニ關スル交換文書ノ改訂案

No. 125

(四月五日接受)

Japanese Ambassador to the Secretary of State, Section 3 of Immigration Law which passed Congress February 7th, 1917, contains clause reading (omission). Phrase "now in any way" being open to a broad latitude of interpretation, Japanese Government cannot quite relieve itself of apprehension that the clause might prove prejudicial to Japanese immigration. Accordingly, under instructions of my Government, I have the honor to request you good enough to assure

一九

一 米国移民法制定及修正一件 三〇 三一 三二 三三

me so-called Gentleman Agreement would not, from its very nature, come within the purview of the application of the said clause.

Secretary of State to the Japanese Ambassador,

In reply I beg to state that, in my opinion, Agreement should not, from its very nature, come within the purview of the application of the said clause.

三〇 四月五日 本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

移民法ニ関スル文書交換方訓令ノ件

第一〇二号

貴電第一二四号ニ関シ貴電第一二五号ノ通り文書交換セラレ差支ナシ

三一 四月五日 本野外務大臣ヨリ
在ホノルル諸井総領事宛(電報)

移民ニ行ハレタル語学試験ノ内容問合ノ件

第六号

貴電第一二二号ニ関シ移民局ニ於テ試験的ニ試ミタリト謂フ日本語試験ハ如何ナルモノナルヤ至急電報アレ

二〇

三二 四月六日 在ホノルル諸井総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本移民ニ対スル語学試験ニ付回電ノ件

第一三三号

貴電第六号日本語試験ハ尋常小学卒業ノモノナラハ普通読ミ得ル程度ノモノニシテ例ヘン Shake your right hand. Pull your car with your left hand. Cough. Take a pencil and some paper and write your name. 以上ヲ漢字交リノ日本語ニ訳シ漢字仮名ヲ合セテ三十語乃至四十語ヲ試験ス若シ其ノ中一語ニテモ読ミ得ザルトキハ上陸ヲ許可セザル方針ナリト云フ

註 右電報ハ四月七日本野外務大臣発諸井総領事宛電報第七号ヲ以テ在米国佐藤大使宛転電セシメラレタリ

三三 四月七日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

米国新移民法ニ関スル交換文書ノ正文写送付

ノ件

附屬書 四月六日附右交換文書(一)(二)

機密第三八号 (五月七日接受)

大正六年四月七日

在米特命全權大使 佐藤 愛 磨(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

米国新移民法ニ関シ文書交換ノ件

去二月五日制定セラレタル米国新移民法第三条中ニ存スル“no alien”云々ノ条項ニ関シ本日往電第一三二二号ヲ以テ報告申進候通貴電第一〇二号御賛認済ノ文書交換ヲ了シ候間右正文写相添茲ニ及報告候 敬具

(附屬書)

米国移民法ニ関スル四月六日附交換文書(一)(二)

(一)

佐藤大使ヨリ國務長官宛往翰

IMPERIAL JAPANESE EMBASSY

Washington

Sir: April 6, 1917

Article 3 of the Immigration Act which passed the Congress on February 5, 1917, contains a clause reading:

“and no alien now in any way excluded from or prevented from entering the United States shall be admitted to the United States.”

The phrase “now in any way” being open to a broad latitude of interpretation, the Japanese Govern-

一 米国移民法制定及修正一件 三三

ment cannot quite relieve itself of the apprehension that the clause might prove prejudicial to Japanese immigration.

Accordingly, under instructions from my Government, I have the honor to request you to be good enough to assure me that the so-called “Gentleman's Agreement” would not, from its very nature, come within the purview of the application of the said clause.

Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) Aimaro Sato

Honorable Robert Lansing,

Secretary of State.

(二)

國務長官ヨリ佐藤大使宛返翰

DEPARTMENT OF STATE

Washington

No. 19

April 6, 1917.

Excellency:

I have the honor to acknowledge the receipt of your Note of April 6, 1917, concerning the following

一一

clause of the Immigration Bill which passed the Congress on February 5, 1917:

“and no alien now in any way excluded from or prevented from entering the United States shall be admitted to the United States.”

You request me to assure you that the so-called “Gentleman’s Agreement” will not come within the purview of the application of the above mentioned clause.

In reply I have the honor to state that, in my opinion, the “Agreement” should not, from its very nature, come within the purview of the application of said clause.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) Robert Lansing

His Excellency

Mr. Aimaro Sato,

Japanese Ambassador.

三四 四月七日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

米国新移民法ニ関シ其成立ニ至ル迄ノ間ニ於

スルモノナリトノ感想ヲ深カラシメ移民制限ノ必要ハ殆ント拳國ノ輿論タルニ至リ候(戦争前ニ於テハ主トシテ南欧ヨリノ移民制限唱導セラレ北欧殊ニ「スカンデナヴィア」、独逸等ヨリノ移民ハ寧ロ歡迎セラレ読方試験規定ノ如キモ右南欧移民ノ制限ヲ目的トセルモノナリシモ今ヤ独逸人及ヒ独逸血統ヲ受ケタル米人各種々政府ノ政策ヲ妨害スルノ行動ヲナシ稍モスレハ國論ノ分裂ヲ見ントスルノ形勢アリシカ為メ一般ニ移民ヲ制限シ国内ノ統一ヲ破ルヘキ分子ヲ排斥スルノ必要ハ當國識者ノ看取スル所トナリ又他方労働省側ノ意見トシテ戦争中並ニ戦後ニ於ケル移民渡米ノ減少ハ自認スルト同時ニ戦後ニ於テ老幼又ハ廢人ニ類スル不良移民ノ多数入國アルヘキヲ憂ヒ読方試験規定ハ之ヲ制限スルニ効アルヘシトセリ)ト共ニ行政部側ニ於テモ本案ヲ否決セシムルカ為メ從來ノ如ク余リ熱心ナラザリシ形勢看取セラレ候

從テ上院カ去十二月十二日再ヒ討議ヲ始メタル以後ニ於テ本使ハ日本ニ關係アル事項ニ對シ本案カ成立スヘシトノ予測ノ下ニ特ニ注意ヲ払ヒタル次第ナルガ加州議員等ハ本案カ上院會議ニ於テ真実目ニ討議セラルルニ至ルヤ我ヨリノ

ケル交渉経過報告ノ件

附屬書一

大正五年十二月三十日佐藤大使ヨリ國務長官ニ手交ノ覚書写

二 一月十五日附佐藤大使ヨリ國務長官ニ送付ノ覚書写

三 一月十五日附國務長官ヨリ佐藤大使宛回答ノ覚書写

機密第四四号

(五月十二日接受)

大正六年四月七日

在米特命全權大使 佐藤 愛 磨 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎 殿

去十二月開会前期議會ニ於テモ行政部ヲ支持スル直系議員ハ依然大統領ヲ窮地ニ陥レシメザルノ見地ヨリ移民法案ノ進議ヲ妨害スルノ立場ヲ採リシモ上院關係委員「スミス」「ロッヂ」及下院關係委員タル「バーネット」等ハ自分ノ名譽心ヨリ言フモ永年継続ノ本案ヲ同議會中ニ解決セント欲シ其ノ他ノ議員等モ當國ノ國情トシテ最モ勢力アル労働団体ノ勸心ヲ繫ク關係上表面上ヨリ之ニ反對シ得ザル内情アリ將又戦争ノ當國人心ニ及ボシタル影響ノ一トシテ多数移民ノ渡米ハ米國民心ノ統一ヲ阻害シ國防上ノ弱点ヲ組成

希望ニ基キ改刪シタル經緯度条項其ノ他ニ對シ何等カノ修正ヲ加ヘザル以上之ヲ容認セザルヘキ氣勢ヲ示シ結局往電第二〇一号乃至第二〇三号ノ通り第三条(一) white persons 云々ナル字句ナル除外規定ヲ設ケ(二)移民制限ニ關スル現行法律条約協約又ハ取極ハ廢棄セズトノ留保ヲ受ケ並ニ(三)一時的居住ノ移民ノ入國ノ禁止ヲ目的トスル規定ヲ設ケラレタルガ後者ニ對シテハ我ト同様ノ關係アル英伊等ノ代表者ト協同削除方ヲ尽力シ(一)及(二)ニ關シテハ我ニノミ關係アル規定ナルカ故ニ貴電第一二五号御訓令ノ趣旨ヲ体シ往電第二二七号報告ノ通り十二月三十日國務長官ニ懇談ヲ試ミ帝國政府カ右兩規定ニ對シ反對スル理由並ニ經緯度規定カ挿入セラレタル彼我交渉ノ沿革ヲ縷述シ只管来ルヘキ協議會ニ於テ兩規定ノ刪除乃至修正方ニ付キ同長官ニ於テ特別ノ尽力アランコトヲ依頼スル所有之同時ニ同長官ノ希望ニ応シ本官陳述ノ参考ノ為メ持參セル附屬甲号口上書ヲ手交致候

超エテ往電第六号ヲ以テ報告ノ通り一月八日兩院協議會ニ於テハ前記上院修正(一)ニ付テハ東印度人等カ白人ト認メラレタル判決アル結果東印度人ハ經緯度別ニ依ル入國禁止区

域ノ住民タルニ拘ラス白人トシテ入国シ得ヘキニ至ル虞アリタルカ為メ國務長官宛口上書ニ於テ本使カ陳言シタル通り右上院修正ハ削除シ之ニ代ヘテ問題トナリタル西部西伯利亜全部ヲ禁止区域トセザルコトナシ我希望ヲ達シ候得共上院修正(二)所謂「フキーラン」条項ニ付テハ之ヲ删除スル代リニ何等カノ形式ニ因リ現ニ入国ヲ禁止制限セラレ居ル移民ハ依然入国ヲ禁止ストノ漠然タル新規定ヲ経緯度別条項中ニ挿入スルニ至リ候

右協議会決定ノ新条項ニ付テハ往電第一〇号、第一九号及第二〇号ヲ以テ卑見詳陳致シ候通り案ノ文理上何等我移民ニ対スル区別的規定ハ認ムルヲ得ザルノミナラズ日本移民ハ所謂紳士協約ノ為メ帝國政府ノ自制ニ依リ日本ヨリ渡航ノ際制限セラレ居ルニ止リ米國国法上ヨリモ条約上等ヨリ云フモ米國入国ニ関シ現ニ制限有之事ナク從テ本追加条項ハ日本移民ニノミ区別的ニ適用ナキモノト解釈シ得ヘント信シタルモ之ト同時ニ本使ニ於テモ本条項追加ノ沿革ニ徴シ本追加条項カ将来何等カノ機會ニ我移民ニ不利ナル様害用セラルヘキヲ虞レ若シ本条項カ成立スル場合ニ於テハ將來ニ於ケル我立場上右ハ何等紳士協約ヲ包含スルモノニ非

ズトノ了解ヲ國務長官ヨリ取付ケ置クノ必要ヲ当初ヨリ感知シタル所ニ有之候然ルニ一月十一日閣下ニ於テハ該条項ニ対シ先ツ删除方ニ付交渉スヘキ趣旨訓令有之本使ニ於テモ右申入レヲナスコトハ全然賛成スル所ナリシモ其申入レノ口実及ヒ時機ニ関シ困難ナル事情アルカ為メ特ト考究ヲ要スル次第有之一月十二日先ツ往電第一〇号ノ通り卑見具陳致シ置候処其後意外ニモ往電第一一号報告ノ通り同日下院議場ニ於テ協議会案ヲ付議スルニ際シ協議会カ権限ヲ超越セリトノ理由ニ依リ本法案ヲ協議会ニ再付託スルニ至リタルノミナラス協議員タル「バーネット」「ヘース」等ハ当該關係条項ハ日本トノ紳士協約ニ依リ移民制限ヲ指スモノナルヲ暗示セル言議ヲ為シタルニ依リ茲ニ於テ本使ハ貴電第八号删除方申入レニ対スル適當ナル時機及ヒ口実ヲ得タリト思考シ往電第一二号報告ノ通り直チニ國務長官ニ面会シ一方新協議会ニ於テ *no alien* 云々ノ規定ニ代ヘ我ニ一層不利ナル条項ノ挿入セラレザルコトヲ努ムルト共ニ他方「ヘース」等ノ言ヲ引用シ当該条項删除ノ必要ヲ將來ニ於ケル我立場ヲ害セザル注意ヲ以テ之ヲ切言シ置キ尚右本使所述ノ次第ヲ附屬乙号覺書ニ示シ一月十五日早朝國務長官

迄届ケ置候右本使ヨリノ覺書ニ対シ國務長官ニ於テハ同日付回答覺書ヲ翌日送附シ其中ニ於テ往電第一六号報告ノ通り關係条項ガ何等協約ニ言及セズ又其性質一般的ナルヲ言明致候茲ニ於テ本使カ当初ヨリ希望シタル關係条項ニ關スル國務長官ノ保障ヲ一応取付ケタル結果トナリ又國務長官ヲシテ該条項ハ紳士協約ヲ包含スルモノニ非ズトノ意見ヲ「コンミット」セシメタル形トナリタルモ該覺書ノ字句ハ余リ広汎ニ失スル嫌ヒアリ殊ニ往電第一七号報告ノ如ク協議員等ハ益々該条項ヲ以テ紳士協約ヲ指スモノトナス言議ヲ為スニ至リタルヲ以テ本使ニ於テモ直截的ニ該条項ハ何等紳士協約ヲ指摘セズトノ了解ヲ彼我兩國政府間ニ交換シ置クコト緊要ナリト思考スルニ至リタル処閣下ニ於テモ貴電第二二号及第二九号ヲ以テ本使ニ御訓電有之候ニ依リ本使ニ於テハ國務長官ニ対シ往電第一六号報告ノ通り國務長官回答覺書ノ趣旨ヲ布衍シ關係条項ハ何等紳士協約ノ場合ヲ予想シタルモノニ非ズトスル該条項解釈ニ關スル文書ヲ交換シ度キ旨申込ミ右文書交換ハ単ニ國務長官カ為セル言明ヲ再言スルモノニ外ナラズトスル態度ヲ以テ國務長官ニ懇談ヲ試ミ且ツ我ヨリ文書ヲ送ルニ対シ先方ヨリ満足ナル

回答ヲ送ラザル場合ニハ將來ノ我立場上却テ不利ヲ醸スモノアリト思考セラレタルヲ以テ交換スヘキ彼我文案ニ付テハ予メ彼我ノ間ニ協定ヲ遂クヘキコトヲ申込ミ往電第二七号、第三八号報告ノ通り二月二日先ツ我ヨリ希望ノ文案ヲ國務省迄提出シ二月五日愈々移民法案ハ上下兩院ノ「オバーライド」ニ依リ成立ヲ見ルニ至リタルヲ以テ爾來屢次督促致候得共当局者ニ於テハ我提案ノ主意ニ元ヨリ賛意ヲ表スルモ國務長官以下対外交問題ノ為メ忙殺セラレ当方ヨリ提出ノ文案ニ研究ノ余裕ナク乍不本意迅速ノ取運ヒ付キ兼ねタルモ時々先方ノ注意ヲ喚起シ尚先方ノ希望ニヨリ立法者ノ意思ヲ忖度スル嫌アルカ如キ文句ヲ改修スル等屢々往復ヲ重ネ三月二十一日一応往電第一一二号第一一三号ノ文案ニ双方ノ合意成立シタルモ貴電第八七号御下訓ノ次第アリタルニヨリ更ニ其主旨ヲ体シ交渉ノ末遂ニ往電第一三二号及拙信機密第三八号ノ通り文書ノ交換ヲ了シ候尚此交換交渉ニ際シテハ國務省側ハ終始我態度ヲ諒トシ我要望ニ協ハン事ヲ踴メタル誠意ハ充分ニ本使ノ觀取シタル処ニ有之唯本件ノ性質上及當国行政部ノ地位上立法部又ハ司法部ノ権内ニ触ルル嫌アル点ハ成ルヘク之ヲ避ケントシタル為

メ我有望トノ調和点ヲ得ルニ一時困難ヲ感シタルモ大体ニ於テ我当初ノ主旨ヲ貫徹スルヲ得タルハ本使ニ於テ満足ヲ感スル処ニ有之候

右成行説明旁此段及報告候 敬具

(附圖書一)

甲号字

大正五年十二月三十日佐藤大使ヨリ國務長官ニ手交ノ覚書

I

The striking out of the clause "nothing in this Act shall be construed to repeal any existing law, treaty, or agreement in so far as such law, treaty, or agreement serves to prohibit or restrict immigration into the United States or any possession thereof" from the senate amendment numbered(5). In the course of the negotiations between you and my predecessor, Viscount Chinda, concerning the immigration bill now pending in Congress, it was undoubtedly the earnest desire of my Government that any clause or word which might have any reference to the so-called Gentlemen's Agreement existing between Japan and the United States should not be inserted. In the Senate amendment mentioned above which was

possible, at least the word "agreement" will be deleted from this amendment in accord with the good faith which the United States Government has heretofore so kindly shown in this connection. I may add that, according to my understanding, in this country there is no existing agreement or any sort of agreement which serves to restrict immigration into this country except that agreement with Japan, if agreement it may be called.

Thus it may be asserted there is no reason to leave the word "agreement" in the immigration bill if this Government do not intend to make any reference to the so-called Gentlemen's Agreement with Japan.

II

Striking out the words "white persons nor to" in the Senate amendment numbered (6).

In the course of the negotiations between you and my predecessor Viscount Chinda, concerning the immigration bill, you showed him on May 1st, a draft of the amendment which you were going to send to Senator Smith, Chairman of the Committee on Immi-

proposed by Senator Phelan the word "agreement" was especially added with a view to referring it to the existing agreement between Japan and the United States which is now serving to restrict Japanese immigration into the United States or its possessions. This fact was clearly shown from the speeches of that Senator and others on the floor of the Senate as appeared in the Congressional Record. As you remember, the word "agreement" was deleted even from Section 32 and Section 33 of the House Bill by the Senate Immigration Committee to accord with the desire of the Japanese Government set forth in the beginning. Moreover, there is no necessity to leave in this clause the words "law and treaty" because there are no existing laws or treaties except as to Chinese which serve to prohibit or restrict immigration into this country and as to Chinese there is a general exception provision in Section 38 mentioning that the status of the Chinese exclusion law will not be changed in any way. Therefore, the Japanese Government again earnestly desire that this clause inserted in the Senate Bill will be entirely stricken out, or if it is not

gration, setting forth the desire of the Japanese Government. In that draft it was proposed to insert in the place of the amendment now numbered (5) to wit: "Hindus; unless otherwise provided for by existing treaties, persons who cannot become eligible under existing law to become citizens of the United States by naturalization, who are natives of any country, province or dependency situated on the continent of Asia west of 110th meridian of longitude east of Greenwich,***". In this amendment Viscount Chinda objected to the retention of the clause "persons who cannot become eligible***", because such retention though it has no relation to Japan now that Japan has been excluded from the excluding zone defined by the longitude and latitude, such retention in the Federal Statutes may be taken as a precedent in future in the state legislature in passing the discriminatory statute against the Japanese people. Then, according to the memory of this office, you proposed to Viscount Chinda to use the words "not white persons" instead of "persons who cannot become eligible". To this proposal of yours Viscount Chinda again raised

objection for the same reason, namely, that the words "white persons" also might be used in the State legislature as a defining line in passing a law which is discriminatory to the Japanese people. Viscount Chinda also maintained that in the face of the wording of the naturalization law of this country, the words "not white persons" and "persons who cannot become eligible" can be said to be synonymous in the main. Accordingly, in your letter sent to Senator Smith under date of May 11, setting forth the amendment in accordance with the desire of my Government, you struck out the abovementioned clause "persons who cannot become eligible***" as now shown by the Senate amendment numbered (5).

Now in the Senate amendment numbered (6) inserting the words "white persons" in the exception clause of the so-called longitude and latitude clause the Senate adopted the same thing in substance which appeared in your first proposal and which was subsequently stricken out on account of the objection of Viscount Chinda. Therefore, the Japanese Government earnestly desire to again have stricken out the words

"white persons" appearing in the Senate amendment numbered (6) also in accord with the same courtesy which the United States Government has heretofore shown to them. I may add, simply as a suggestion, that the object of the Senate in inserting the exception for "white persons" can be attained if the longitude line mentioned in the bill were to be moved a little further east even in case the words "white persons" are stricken out. That is to say, Senator Reed objected to this Senate amendment only as it might exclude the admission of the white people residing in the western part of Siberia, included in the excluding zone.

(附圖轉11)

ニ添付

一 氏十臣田佐藤大輔 〇 國務院より衆議院へ送附

IMPERIAL JAPANESE EMBASSY

Washington

The Japanese Ambassador presents his compliments to the Honorable the Secretary of State and, in sending to him herewith an Aide Memoire with reference to their interview on the 13th instant, has

the honour to request that the Secretary of State will be good enough to let him know beforehand, if possible, the nature of the amendment on the point under representation from his Government which will possibly be agreed upon by the Conference Committee on the Immigration Bill.
January 15th, 1917.

(別 紙) (註 右附屬書ニ別紙ナリ)

IMPERIAL JAPANESE EMBASSY

Washington

AIDE MEMOIRE

The Conference Committee on the Immigration Bill has adopted, in place of the Senate amendment reading, "nothing in this Act shall be construed to repeal any existing law, treaty, or agreement, in so far as such law, treaty, or agreement serves to prohibit or restrict immigration into the United States or any possession thereof", the following provision,—
"And no alien now in any way excluded from or prevented from entering the United States shall be admitted to the United States."

That this provision cannot possibly be construed

otherwise than as referring to the so-called "Gentlemen's agreement", is evident not only from its wording but from the explanatory speeches delivered on the floor of the House on January 12th. My Government feel constrained, by the same reasons as advanced in my Aide Memoire handed to you on the 30th of December last, to raise objection to this new provision and instruct me to again request your good offices to the end that the provision be deleted and nothing similarly objectionable be substituted. I may add that the Senate amendment above cited would be preferable to my Government to the Conference provision in question, only if the word "agreement" be left out.

(附圖轉11)

一月十五日附國務長官ヨリ佐藤大使宛回答ノ覚書

MEMORANDUM

The Secretary of State acknowledges the receipt today of a note from the Japanese Ambassador transmitting an Aide Memoire relating to a clause in the Immigration Bill now pending in Congress.

The Aide Memoire has been sent to the Chair-

men of the Conference Committees of the Senate and House of Representatives to be presented to the joint Committee for consideration.

The Secretary of State, however, is unable to share the opinion of the Ambassador that the amended clause to which reference is made should be considered objectionable by the Japanese Government, since no reference direct or indirect is made to the "agreement" and the legislation is general in character and discriminates against no nationals. The attention of the Ambassador is called to the fact that the conference report was adopted by the Senate on Saturday last and that the report will probably come before the House of Representatives tomorrow for action.

(Signed) Robert Lansing
Department of State,
Washington, January 15, 1917.

三三 四月八日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本移民ニ対スル語學試験ノ方法及写真結婚
婦人ニ対スル右試験免除ニ関シ米國官憲ニ交

三七 四月十日 在マニラ杉村領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國制定ノ移住法ニ依リ比島渡航ノ外国人ニ
入國税賦課ノ件

第三八号

本年二月米合衆國制定ノ外国人來住法ハ当比律賓ヘモ実施
セラルコトナリ居ルヲ以テ本年五月一日後本島ニ渡來
スル外国人ハ一人ニ付米貨八弗ノ入國税ヲ賦課セラルヘキ
コトニ改ル但父母帶同ノ十六才以下ノ小兒ニハ課税ナシ

三八 四月二十一日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ取扱振及日本移民ニ対スル語
學試験ノ方法ニ関スル交渉ニ付回報ノ件

第一四七号

貴電第一〇五号ニ関シ写真結婚ノ問題ハ当局者ニ対シ本邦
ノ法律並習慣ニ基テ結婚成立ノ事情ヲ反覆説明シ關係法規
ノ訳文ヲ送付シタル等ニ依リ十分先方ヲ了解セシメタル結
果其ノ結婚關係ヲ認ムルコトニ近日決定セムトスル模様ナ
リ、次ニ文字試験ニ関シテハ当局ニテ日本語ニ精通セルモ

一 米國移民法制定及修正一件 三七 三八 三九

渉方訓令ノ件

第一〇五号

在ホノルル総領事來電第一三三号ニ関シ仮名ヲ附セザル漢字
交リノ日本語試験ヲ行ハバ尋常小学卒業ノモノト雖試験ニ
合格シ得ザルコト貴官宛同総領事往電第二号ノ通りナルベ
キハ免レザル所ナルベク本邦人ノ不便不利不尠ニ付試験ハ
主トシテ仮名トシ漢字ニ対シテハ普通新聞紙等ニ於ケルカ
如ク凡テ仮名ヲ附シ試験スル様其筋ト御打合せ相成度尙写
真結婚婦人ハ從來米國官憲ニ於テ適法ノ妻ト見做サレザル
モ實際ノ事實ハ我カ法規ニ從ヒ結婚入籍後六ヶ月ヲ經過シ
タル上在米夫ノ許ニ赴ク者ナルニ付此際米國官憲ヲシテ適
法ノ妻タルコトヲ認メシメ讀書試験免除ノ利益ヲ享ケシム
ル様至急御交渉アリタシ

三六 四月八日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民法ニ関スル國務省トノ文書交換完了ノ件

第一三二号

貴電第一〇二号ニ関シ六日附ヲ以テ文書交換ヲ了セリ

三九 四月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

日本移民ニ対スル語學試験ノ方法ニ関シ交渉

方再訓令ノ件

第一二三号

貴電第一四七号ニ関シ各方面ニ於ケル實驗ノ報告ヲ綜合ス
ルニ本邦移民ノ讀書力ハ案外低級ニシテ現ニ汽船会社ニ於
テ小学校五年用読本ヲ用ヒ試験シタルニ不合格者尠カラザ
リシ由長崎県知事ヨリノ報告モアリ読方試験ハ樂觀スルヲ
許サザルモノト認メラル然ルニ試験開始後我レニ不利ナル
結果ヲ見テ始メテ交渉ヲ開始スルハ却テ面白カラザルニ付

此際「アルファベット」ヲ以テ綴リタル欧州語ト比較シ仮名ヲ附セザル漢字ヲ読マシムルコトハ頗ル権衡ヲ失スルモノナルコト又仮名ヲ振ラザル漢字ハ日本ニ於ケル普通ノ読物ト称スルコトヲ得ズ現ニ我カ新聞其他普通ノ読物ハ凡テ漢字ニ仮名ヲ附シアル事実ヲ指摘セラレ往電第一〇五号所載当方ノ希望ヲ容レシムル様至急御尽力アリタシ

四〇 四月三十日 本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

日本移民ニ対スル語学試験ノ方法ニ関スル交
渉状況並該試験ノ模様及成績報告方訓令ノ件

第一三四号

往電第一二三号ニ関シ至急何分ノ回電アレ尚邦人ニ対スル読方試験ノ模様並成績ニ関シ電報方本大臣ノ訓令トシテ在桑港総領事任在ホノルル総領事及在シアトル領事ニ転電アレ

四一 五月一日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ取扱振及語学試験ノ方法ニ関
シ米国当局ト交渉模様回報ノ件

第一六〇号

ノコトナリ

桑港、ポートランド、シアトル、ホノルルへ転電セリ

四三 五月七日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ハ正式ノ妻ト認ムルニ決定ノ件

第一七〇号

写真結婚問題ハ連日交渉ノ結果先方ニ於テ遂ニ当方ノ主張ヲ容レ愈々正式ノ妻ト認ムルコトニ決シ今五日労働省ヨリ桑港「シアトル」「ホノルル」及晚香坡各港移民官ニ電報ヲ発シ追テ別段ノ訓令ヲ発スル迄ハ戸籍謄本及米国在住者新結婚当事者カ戸籍吏ニ提出シタル結婚届ノ認証謄本ヲ携帯スルモノニ対シテハ其ノ結婚ノ存在ヲ認メ從テ之レニ文字試験ヲ行ハザルコトトナスヘシ現ニ航行ノ途中ニ在ルモノニ関シテハ追テ前記認証謄本ヲ提出セシムルコトトシ差支ナシ尚従来行ハレタル着米後ノ結婚ハ今後之レヲ要求スルニ及ハザル旨夫々訓令シタル趣ナリ其ノ結婚届ノ謄本ヲ要求セル理由ハ欧洲人ノ結婚証書ニ匹敵スヘキモノトシテ戸籍謄本ノミニテハ不十分トセルニ由ル
桑港、シアトル、ホノルルへ電報セリ

貴電第一三四号ニ関シ往電第一四七号發送後館員ヲシテ反覆当局ニ説明且交渉セシメ満足ノ解決ヲ得ル様努メツツアリ国務省ニ於テハ当方ノ主張ニ全然同意シ仲介ノ勞ヲ客マザルモ労働省ニ於テハ写真結婚問題ニ対シ従来懷抱セル議論ノ行懸上今日俄ニ我主張ヲ容ルルノ雅量ヲ示スニ躊躇シ幾分当方ヲジラシ居ル気味アルモ主義ニ於テ右結婚成立ヲ認メザルヲ得ザルコトヲ覚悟セルノ底意明ナルヲ以テ結局ハ我ニ同意スルナルヘシ又文字試験ノ件ハ仮名ヲ用キシムルコトニ交渉シツツアリ此ノ方ハ格別困難ナカルベキ見込ナルモ前記ノ件ト共ニ未タ最後ノ決定ヲ見ルニ至ラズ何レモ試験開始期来五月五日二十分間ニ合フ様目下当局ヲ督励中ニテ一兩日中ニハ解決ヲ告クヘキ見込ナリ

四二 五月三日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本移民ニ対スル語学試験ノ方法決定ノ件

第一六六号

貴電第一六〇号後段ニ関シ文字試験問題ニハ総テ仮名ヲ附スルコトニ決シ今二日労働省当局ヨリ夫々当該地方官憲ニ電訓セル趣ナリ尚写真結婚問題ハ今明日中ニ決定スヘシト

四四 五月十日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛

新移民法ニ基ク語学試験及写真結婚婦人ノ取
扱ノ問題ニ関スル件

機密第五五号

(六月四日接受)

大正六年五月十日

在米特命全權大使 佐 藤 愛 磨 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

新移民法ニ依ル文字試験ヲ写真結婚婦人ニモ適用セントセル件ニ関シテハ客月三日在布諸井総領事ヨリ其筋ヘ交渉方來電(第二号)ノ次第アリ直ニ藤井書記官ヲシテ一方ニ国務省側ニ交渉スルト共ニ直接労働務省移民局ニ開談セシメタル処同局法律掛主任者 Parker 氏ハ其ノ年来ノ主張トシテ邦人ノ写真結婚ハ他ノ諸外国人ニ対スル取扱振ノ権衡上ヨリ謂フモ米国法ノ觀念上到底正当ノ結婚ト認ムルヲ得サル旨ヲ述ヘ当初容易ニ讓ラサル模様ナリシカ当方ヨリ本邦ノ法律習慣ニ基ク婚姻成立ノ事情ヲ反覆説明シ其ノ成立時期ハ戸籍吏カ書面若ハ口頭ニ依ル届出ヲ受理シタル時ナルコト及宗教上若ハ社会上ノ儀式ノ如キハ法律上婚姻ノ成立

ニ何等ノ意味ヲ成ササルコト並各当事者携帯ノ旅券及戸籍
 謄本ニモ明カニ妻トシテ記入シアルコト等ニ関シテ詳説ス
 ル所アリ且ツ元来婚姻ノ成立要件等ニ関シテハ一般ニ各国
 国内法ノ規定ニ一任スヘキ性質ノモノニシテ特ニ米国ノ公
 安ヲ害スル等重大ナル理由ナキ限り日本国法ノ規定ニヨリ
 テ決セラレ度若シ先方ニ於テ何処迄モ我国法ノ規定ニヨリ
 テ適法正當ニ成立セル結婚ノ効力ヲ認メサルコトトモナラ
 ハ吾人ニ取リテ実ニ重大ナル問題ヲ生スヘシト述ヘ從來米
 国政府カ幾多ノ写真結婚婦人ニ対シ未タ嘗テ妻ト認メサル
 旨ヲ宣言シタルコトナク帝國政府カ過去十年間誠実ニ実行
 シ来リタル紳士協約ノ締結以来今日迄本件ニ関シテ何等公
 然ノ問題ヲ生セサリシニモ不拘今日文字試験ノ適用問題ニ
 関シテ俄ニ之ヲ認メサラントスルハ極メテ遺憾トスル次第
 ヲ語リ米国ノ入国者統計表ニモ從來皆妻トシテ記入シアル
 点ヲ指摘シ連日執拗ニ反覆説明ヲ加ヘタル結果漸次当方ノ
 主張ヲ容ルルニ至リ客月十六日田中参事官カ國務省極東課
 次長 Lockhart 氏ニ面談ノ節先方ヨリ米国港到着前ニ当該
 結婚ノ正當ニ成立シ居ル事ヲ証明スルニ足ル書類ヲ携帯セ
 シムルコト並日本民法中婚姻ニ関スル法文ノ条項ヲ先方ニ

送附スルコトヲ希望シタルニ付別紙甲号(一、及二)ノ通
 リ之ヲ送附シ置キタリ(之ニ対スル先方ノ回答書甲号ノ
 三)

國務省側ハ当初ヨリ本件ニ関シテ極メテ好意的態度ヲ持シ
 容易ニ当方ノ希望通り之ヲ解決シ得ルモノト考ヘ居リタル
 カ如キモ勞務省當局者ノ態度兎角安心ヲ許ササルモノア
 リシニ依リ本使ハ前後兩回親シク國務長官及國務省参事官
 ヲ訪問シテ説明ヲ加ヘ当方ノ希望通り本件ノ円満ニ解決ス
 ル様尽力ヲ依頼シ其ノ快諾ヲ得タリ

其ノ後勞務省當局者ハ藤井書記官ニ対シ日本民法中当事
 者ノ一方カ本國ニアリ他方カ外國ニアル場合ニ其ノ結婚ヲ
 正當ト認ムル条項ナキカ他ノ諸外國人ニ対スル取扱振ト權
 衡ヲ保ツ為右ノ点ニ関スル何等カノ記録即他ノ法規ノ条項
 若ハ判例ヲ指示スル様希望シタルニ付右ハ我民法中別ニ之
 ヲ禁スルノ規定ナキノミナラス戸籍吏カ届出ヲ受理シタル
 時ヲ以テ一般ニ婚姻成立ノ時期トナシ然カモ其ノ届出タル
 ヤ書面ニ依ルヲ普通トシ唯口頭ヲ以テスル場合ニ本人ノ出
 頭ヲ要スルニ過キス若シ夫レ判例ニ至リテハ我法規上斯カ
 ル事件ノ裁判所ニ現ハルヘキ事由ナキカ故ニ存在セサルモ

ノニシテ要スルニ本邦特種ノ風俗習慣ニ基因スルモノナル
 コトヲ繰返シ説明シテ漸ク其ノ了解ヲ得タルカ此ノ点ニ関
 シ別紙乙号ノ如キ来翰アリ之ニ対シ別紙丙号ノ如キ回答ヲ
 与ヘ連日兩省當局者ニ対シ更ニ敷衍説明スル所アリシカ結
 局本月七日ニ至リ別紙丁号ノ如キ最後ノ来翰アリ其ノ内容
 ニ就キ同月五日内示ヲ得タルニ付即日往電第一七〇号ヲ以
 テ不取敢報告申進置キタル次第ナリ

要之本件ハ國務勞務兩省當局ニ対スル当方ノ熱心ナル説
 明ト夙ニ國務省側ノ了解ヲ得テ勞務省當局ニ対スル其ノ
 圧迫アリタルニ依リ幸ニ当方希望通りノ解決ヲ得往電第一
 七〇号所報ノ通り從來写真結婚婦人ニ対シテ実施シ来リタ
 ル当國到着後ノ儀式モ將來之ヲ廃止シ多年ノ主義ヲ抛擲シ
 テ漸ク之ヲ正當ノ結婚ト認ムルコトトナリタルモ勞務省
 當局者ハ其ノ年来ノ主張ニ対スル行掛上此際大ニ其ノ面目
 ヲ維持セントスルニ汲々タリシカ如ク為ニ不尠交渉ヲ長引
 カシメタリ

次ニ文字試験課題ノ程度ノ件ニ関シテモ前記諸井総領事ノ
 来電(第二号)ニ因リ写真結婚ノ問題ト同時ニ交渉ヲ開始
 シ主トシテ他ノ諸外國移民ニ対スル試験問題ニ比較シ公平

簡易ナルモノヲ撰ハシムル主旨ヨリ和訳聖書ノ如キハ其ノ
 現代ノ邦語ト相距ルコト鮮カラザル次第ヲ述ヘ容易ニ國務
 勞務兩省當局者ノ了解ヲ得次テ客月二十四日受貴電第一
 二三号御訓令ノ趣旨ニ基キ仮名ヲ附セシムル件モ新聞雜誌
 ノ実物ヲ提示シテ一応充分ノ説明ヲ加ヘ置キ翌日別紙戊号
 写ノ通り送り置キタル処本月二日當局者ヨリ幸ニシテ当
 方ノ希望通り総テ仮名ヲ附スルコトニ決シ夫々当該移民官
 ニ訓令ヲ發シタル旨當局者ノ言明ヲ得タルニ付即日不取敢
 往電第一六六号ヲ以テ報告申進シタリ

尚諸井総領事發閣下宛第一三号末段記載ノ点ニ関シ當局者
 ニ聞訊シタル所ニ依レハ問題中單ニ一字不解ノ字アリタリ
 トテ直ニ之ヲ不合格ト見ル様ノコトハ全然ナシ唯大体ノ意
 味ヲ解シ得レハ足ル趣ナリ

別紙彼我往復文書写甲号乃至戊号全五通相添ヘ本件交渉ノ
 顛末玆ニ報告申進候 敬具

註 別紙省略

四五 五月十二日 本野外務大臣ヨリ
 在米國佐藤大使宛(電報)

写真結婚婦人ノ戸籍謄本及婚姻届証明書ノ事

後提出承認方ノ件

第一四八号

貴電第一七〇号ニ関シ戸籍謄本及婚姻届ノ証明書携帯ノコトハ至急実施ノ筈ナルガ之ヲ全国市町村長ニ周知セシムルマデニハ相当ノ時日ヲ要スル義ナルニ付本月末日前出發渡米ノ者ニ對シテハ追テ之ヲ提出差支ナキ様御交渉アリタシ

四六 五月十四日 在米国外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻届謄本等ノ事後提出ニ関シ移民当局トノ交渉ニ付請訓ノ件

第一八三号

貴電第一四八号ニ関シ移民局当局者ニ交渉シタル処当館ニ於テ婚姻届謄本事後ノ提出ヲ保証シ且当事者ニ於テ遂ニ之ヲ提出シ得ザル場合ニハ当該者新結婚婦人ヲシテ入国地ノ移民局ニ再出頭セシムルコトヲ保証セバ当方ノ希望ニ副フヘシトノコトナリ就テハ当館ニテ右様ノ保証ヲ与ヘ差支ナキヤ折返シ何分ノ義御回訓ヲ請フ

四七 五月十五日 在ホノルル諸井総領事ヨリ
本野外務大臣宛

入ヲナスニ於テハ直ニ上陸ヲ許可スヘシトノコトナリシニ依リ別紙写ノ通り移民局ニ照会候処右十一名婦人ハ上陸ヲ許可セラルルニ至リ候但シ認証謄本提出ノ履行ヲ確保スル為メ移民局ヨリ之等ノ者ノ旅券及戸籍謄本等ノ廻附ヲ受ケ右認証謄本ト引換ニ之ヲ返附スル筈ニ有之当事者ヘハ遲滞ナク謄本ヲ国元ヨリ取り寄スヘキ旨懇諭致置候目下新規定実施ノ際ナレハ向後写真結婚渡布者中必要ノ兩謄本ヲ失念シ入港後上陸ニ就キ種々不便ヲ醸スモノ統出スルヤニ杞憂セラレ候間右注意方可然御取計相成様致度為御参考申進候也

註 別紙省略

四八 五月十六日 本野外務大臣ヨリ
在米国外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻届謄本ノ事後提出ニ関スル件

第一五六号

貴電第一八三号前段ノ保証ハ差支ナキモ此種ノコトハ領事ヨリ当該移民官ニ保証セシムル方便宜ナリト思考ス後段ノ保証ニ関シテハ当事者ニ於テ謄本ヲ提出シ能ハサルコト無

一 米国民法制定及修正一件 四八 四九 五〇

写真結婚婦人ノ「ハワイ」入国ニ関スル件

公第八八号 (五月二十九日接受)

大正六年五月十五日

在ホノルル総領事 諸 井 六 郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿
今般在米大使ヨリ米国政府ヘ交渉ノ結果同政府ニ於テ写真結婚婦人ハ戸籍謄本及米国在住当事者ヨリ戸籍吏ニ提出セル結婚届ノ認証謄本ヲ携帯スル時ハ正式ノ妻ト認メ之ニ對シ文字試験ヲ免除スヘク又現ニ航行ノ途ニアル者ニ関シテハ追テ前記認証謄本ヲ提出セシムルコトトシ差支ナキ旨在米佐藤大使來電ニ依リ承知致居リ候処本月九日波斯丸ニテ來布セシ写真結婚婦人十一名ニ對シ当地移民局ハ右認証謄本ヲ提出セザル間ハ上陸ヲ許可セズトノコトナリシヲ以テ直ニ当地移民局長ト交渉致候処同局長ハ右認証謄本ハ追テ提出セシメ差支ナキモ提出方ニ関シテ充分ナル保証ナキ限り右特典ヲ与ヘ難ク單ニ当事者ヨリノ請書ノミニテハ不充分ナレバ上陸許可方ニ就キ更ラニ労働省ニ請訓セザルヘカラザルタメ時日ヲ要スヘク尤モ當總領事館ニ於テ当事者ヨリ追テ提出セシムル様出來得ル丈ノ尽力ヲナスヘキ旨ノ申

カルヘキモ怠慢等ヨリ之ヲナサザル場合ニ行政權ヲ有セザル帝國官憲カ当事者ヲシテ移民局ニ再出頭ヲ強制スルコト能ハザルニ付此点ハ移民官ニ於テ適當ノ措置ヲ取ルコトトスル方實際ニ適セル措置ト思ハル但婚姻届謄本ヲ事後提出セザルカ如キハ實際上稀有ノコトナルヘシ

四九 五月二十六日 本野外務大臣ヨリ
在米国外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻証明書發給ニ関スル件

第一六五号

往電第一五六号ニ関シ婚姻届ノ証明書發給ニ付テハ種々困難ノ事情伏在セシモ司法省ト交渉ノ結果当分區裁判所ニ於テ發給スルコトナリタルモ全国ニ亘リ之カ実施マテニハ猶相当ノ時日ヲ要スルニ付往電第一四八号ノ趣旨ニテ上陸差支ナキ様可然御措弁ノ上結果當方及在桑港總領事任在ホノルル總領事任在シアトル領事ヘ電報アレ

五〇 五月二十九日 本野外務大臣ヨリ
在米国外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻証明書ノ事後提出期限ノ延長方並夫ト同行セザル妻ノ婚姻事實ノ証明

書發給等二関スル件

第一六六号

往電第一六五号ニ関シ婚姻届ハ市町村長ヨリ毎月之ヲ監督
区裁判所ニ送付スルヲ以テ一時便宜ノ方法ニヨリ区裁判所
ヨリ謄本ヲ發給スルコトニ司法省ト協議ヲ遂ケタルモ其手
続等ニ関シ同省ニ於テ未タ研究中ニ屬シ実施ニ至ラザルニ
付六月十五日以前ニ出發渡米ノ者ニ對シテハ追テ之ヲ提出
差支ナキ様更ラニ御交渉アリタシ次ニ貴信公第一三八号付
属新移民法集第三九頁末段所載ニ依レハ妻カ夫ト同行セサ
ル場合兩者ノ夫婦關係ヲ証明スルニハ certificate of mar-
riage or other convincing proof of the performance
of the ceremony ヲ提示スルコトヲ要ストアリ我國ニ於
テ法律上又ハ事實上 certificate of marriage ニ代用セラ
ルモノハ戸籍抄本又ハ謄本ニシテ些細ニ我カ民法戸籍法
等ノ規定ヲ精査セハ戸籍抄本又ハ謄本ハ結婚關係ノ証明書
トシテ歐洲人ノ結婚證書ニ優ルトモ劣レリト見ルコト能ハ
ズ可成ハ右ニテ満足セシムル様致シタキモ先方ニ於テ貴電
第一七〇号所載ノ如ク強イテ戸籍謄本ノミヲ以テ不充分ナ
リトナサハ婚姻届ノ認証謄本ノ發給ニハ手續上種々面倒ナ

留置スル次第ナルモ日本人ニ付テハ特別ノ取扱トシテ其後
日ノ提出ヲ以テ満足セシ次第ニ付此上トモニ右期間ヲ延長
スル時ハ大西洋諸港ニ入来スル歐洲人ニ對シテモ同様ノ特
典ヲ与フルノ外ナキコトナリ甚タ困難ヲ感スル次第ナリ
ト陳ヘ結局最初ノ主張ヲ守持シテ動かズ本日此ノ意味ノ公
文ヲモ受領セリ依テ國務省ニ對シ懇談の交渉シタル処同
省ハ終始本件ニ付当方ニ同情ヲ表シ種々尽力シ居ルモ何分
主務省ヲ強制スルノ途ナキニ付此上ハ将来具体的問題ノ發
生シタル上其ノ都度國務省トシテ出来得ル限りノ尽力ヲナ
シ必ラス当方ノ希望ニ副フ様努ムルノ外ナシト其主任者ハ
語レリ就テハ差当リノ処置トシテハ個々ノ問題ニ付國務省
ノ好意ニ信賴スルト共ニ現ニ今日迄「シアトル」及ヒ布哇
ニ於テ領事ノ保証ニ依リ入国セシメ居ル様子ナルニ付今後
此ノ方法ニ準シ地方的ニ個々ノ問題ヲ解決セシムルノ外ナ
カルヘキニ付現今迄ノ經過右様御承知相成タシ猶ホ右取運
ヒ後貴電第一六六号接到セシニ付御訓令ノ趣ハ更ニ交渉ノ
上結果追テ電報スヘシ

五一

六月六日

在ホノルル諸井総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

一 米国民法制定及修正一件 五一 五二 五四

ル事情アルニ付其ノ代リニ市町村長限リニテ容易ニ發給シ
得ル婚姻ノ事實証明書ヲ携帯セシムルコトト致度ニ付至急
当該官憲ト交渉ヲ遂ケラレタシ又右末段所載ニ依レハ写真
結婚ニアラザル妻ト雖夫ト同行セサル場合ニハ写真結婚婦
人ト同様ノ書類ヲ携帯スルヲ要スルカ如ク將又養子ノ渡米
ニ付テハ特種ノ証明書携帯ヲ要スルモノノ如クナルカ地方
長官ヘ訓示ノ都合モアルニ付何分ノ御回電アレ

五一

五月三十日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

渡米婦人携帯必要書類ノ事後提出ノ期限延長

方ニ関シ關係当局ト交渉ノ狀況報告ノ件

第二〇七号

貴電第一四八号及第一五六号ニ関シ数次交渉シ且ツ公文ヲ
以テ本件必要保証ハ当館ノ出来得ル限リニ於テ之ヲ与フヘ
キ旨申送りタルモ労働務省當局ハ当事者ノ本邦ニ於テ乗船
セントスル際差止ムル様汽船会社ヲ取締ル方法モアルベシ
トサヘ主張スルニ至リシヲ以テ其實際ニ適応セザル次第ヲ
力説シタル処先方ニテハ元来新移民法實施當時現ニ渡航ノ
途中ニ在ルモノニ関シテハ必要書類ノ提出アル迄移民局ニ

新移民法ノ語學試驗免除ニ関シ養親子携行ノ
必要アル証明書ノ件

第一八号

新移民法中学術試驗免除ニ関シ養父母又ハ養子ノ渡航ニ際
シテハ同法施行細則第四条第七項(三九頁)ニ基キ戸籍役
場ノ發給セル証明書ニ本邦駐在米國領事ノ証明ヲ受ケ之ヲ
持參セシメラレタシ

註 右電報ハ六月九日本野外務大臣發諸井総領事宛電報第一五
号ヲ以テ在米國佐藤大使宛転電セシメラレタリ

五三

六月七日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻証明書ノ事後提出期限ノ
延長方等ノ件

第一七一号

往電第一六六号ノ件御交渉ノ結果並ニ同末段所載ノ疑義ノ
件至急回電アレ

五四

六月九日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ婚姻証明書ノ事後提出期限延

長方交渉ノ件

第二一五号

貴電第一七一号ニ関シ國務省側ハ当方ニ同情シ尽力シ居ルモ主務省移民局当局者ニ於テ我方数次ノ説明ニ聽從セサルヲ以テ最近更ニ公文ヲ以テ國務省ヲ通シテ交渉中ニテ可成早ク取纏メタキ考ナリ

五五 六月九日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

養子渡米ノ際携行必要ノ証明書二付回電方訓

令ノ件

第一七六号

在ホノルル総領事來電第一八号ノ次第モアルニ付往電第一六六号末段ノ件折返シ回電アレ

五六 六月十日

在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

結婚届膳本不所持ノ写真結婚婦人ノ米國入国

ニ關スル件

第三二号

五月三十日加奈陀丸ニテ渡來シタル写真結婚婦人七名ハ結

ヲ送付スヘキニ付貴官若ハ「シアトル」領事ニ於テ移民官ニ對シ膳本提出ニ關スル充分ナル保証ヲナシ本人等ノ上陸方尽力アレ

五八 六月十三日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人及養子關係移民ノ携行スヘキ書

類ニ關スル件

第二二一号

貴電第一七六号ニ関シ写真結婚婦人ノ携帶スヘキ書類ニ關シテハ目下頻リニ交渉中ニテ夫ト同行セサル際モ規則上結婚ヲ証明スヘキ書類ヲ携帶スヘキコトトナリ居ルニ付結局右ト同様ノ書類ヲ携帶セシメザルヘカラザルコトトナルヘシト考フルモ当局者目下加奈陀ニ出張中ニシテ來週ニ至ラザレハ交渉進行セザルニ付本件解決ニ至ル迄ノ差当リノ措置トシテ右両者ニ對シ戸籍膳本ノ外結婚事實証明書ヲモ携帶セシムル様致シタシ次ニ養父母又ハ養子ノ場合ニ關シテハ追テ先方ト交渉纏ル迄戸籍膳本(本邦駐在米國領事ノ証明アルモノ)ヲ携帶セシメラレタシ就テハ交渉ノ結果右ト異リタル書類ヲ必要トスル場合ニハ其ノ旨直ニ電報スヘシ

一 米国民法制定及修正一件 五八 五九 六〇

届膳本ヲ所持シ居ラサルモ移民局ハ大使發大臣宛第一七〇号電報取極中ノ現ニ航行ノ途中ニアルモノニ準シ便宜入國方ヲ労働省ヘ請訓シ本官亦大使ヘ稟請シタルガ労働省ハ其ノ入國ヲ許サズ膳本提出迄本人ノ費用ニテ移民局ニ留置スルコト丈ケ許シ來レリ然ルニ本件ノミナラズ近々到着スヘキ写真結婚婦人ニハ同様ノ問題起ルヘシト予想スルニ付本官ハ尚ホ移民局ト交渉シ大使ヘモ電稟シ便宜入國方ヲ講シ居レトモ兎ニ角以上ノ成行ナルニ付今後ノ渡航者ニ万一ノ粗漏ナキ様本邦出發港ニ於テ該婦人ヲ取調ヘ必要書類ヲ所持セザル者ハ渡航ヲ延期セシメラル様致シ度シ

五七 六月十三日

本野外務大臣ヨリ
在シアトル松永領事宛(電報)

結婚届膳本不所持ノ写真結婚婦人ノ米國入国

ニ尽力方訓令ノ件

第一一号

左ノ通り在米大使ヘ転電アレ

第一八五号

在「シアトル」領事來電第三二号ニ關シ旅券面記載本人ノ原籍及姓名通報アラバ便宜本人ニ代リ当方ヨリ結婚届膳本

五九 六月十五日

本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

結婚証明書類携帶ニ關シ米國当局ト交渉方ノ

件

第一九〇号

貴電第二二一号ニ關シ夫ト同行セサル妻女ニ付テハ其写真結婚タルト否トヲ問ハス何レモ戸籍膳本ノ外ニ結婚事實証明書(單ニ結婚ノ事實ヲ証明スルモノニシテ婚姻届認証膳本ニアラズ)ヲ携帶セハ充分ナリトノ義ナリヤ若シ然ラズシテ婚姻届認証膳本ヲ携帶スルヲ要スルニ於テハ結婚後多クノ年数ヲ經過シタル者ニアリテハ之ヲ得ルコト極メテ困難殆ント不可能ナル場合アルヘキニ付往電第一六六号ノ趣旨ヲ敷衍シ極力交渉ノ上結果回電アレ

六〇 六月十六日

在桑港垣原総領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

米國在留民中二重国籍者ノ帰國証明ニ關スル

件

第三四号

本官發在米大使宛電報第三二号

往電第三一号ニ関シ在留民中二重国籍ヲ有スル子女ニシテ日本臣民タル父母又ハ他人ニ伴ハレ帰国スルモノ毎船多数アリ多クハ未成年者ナルカ是等子女カ米国民ニシテ旅券ヲ獲得スルニハ尠カラザル困難アルヘク且商務卿ノ要求ハ幼年者ニ対シテモ絶対ニ適用スル趣旨ニアラザルヘキニ付前記未成年者ニ対シテハ無旅券ニテ差支ナキ様至急御交渉ノ上其結果電報アリタシ

六一 六月十七日 在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

結婚届膳本不所持ノ写真結婚婦人条件付入国ノ件

第三四号

貴大臣宛在米大使宛電報第一八五号ニ関シ二名ハ追テ膳本ヲ提出セシムル条件ニテ十二日入国ヲ許サレ残り五名ハ先ニ本人等ノ夫カ移民官ニ対シ結婚届ハ国元ニテ世話シ自分ハ届書ヲ送付シタル事ナシト述ヘタルヨリ問題トナリ留置中ナリシカ大使ヨリ中央当局ニ交渉ノ結果差当リ本人ヲ本官監視ノ下ニ置クコトヲ条件トシテ十五日入国ヲ許サレタリ尚ホ此ノ問題ハ中央ニテ解決ノ筈

六二 六月二十一日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

夫ト同行セザル妻ノ携行スヘキ書類及養親子ノ語学試験免除用ノ書類ニ関シ報告ノ件

第二三五号

貴電第一九〇号ニ関シ当局者ノ言ニ依レハ夫ト同行セザル妻女ハ写真結婚婦人同様ノ書類ヲ要スヘシトノコトニテ其ノ書類ニ付テハ貴電第一六六号ノ趣旨ニ従ヒ目下極力交渉中ナリ次ニ養父母又ハ養子ノ場合ニ関シ当局者ノ主張ニ依レハ移民法第三条ニ依リ文字試験ノ免除ヲ受クル為ニハ施行細則第四条第七項ニ基キ当該縁組カ養子ノ未成年中ニ成立シタルモノナルコトヲ立証セザルベカラズ而シテ其ノ立証ノ方法ハ戸籍膳本ニ本邦駐在米国民領事ノ証明ヲ受ケタルモノヲ持参セハ足レリトノコトナリ

依テ当方ヨリ繰返シ我法規上養子縁組ノ成立ハ必ズシモ養子ノ未成年者タルコトヲ必要トセザル次第ヲ語リタルモ先方ニテハ右施行細則ノ規定上致方ナシト主張シ居レリ就テハ進ンテ右ノ施行細則ヲ改正セシムルノ外ナキモ右ハ既ニ成法トナレルモノニテ之カ改正ハ多少面倒ナルヘキノミナ

第二五六号

貴電第二一七号ニ関シ成ルヘク速ニ解決スル様爾来引続キ頻リニ交渉中ナルガ先方ノ主張モアリ旁々解決迄ニハ尚ホ多少ノ時日ヲ要スヘシト思考ス

六五 七月二十八日 在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

条件付入国ノ写真結婚婦人ニ関シ移民局ヨリ日本送還ノ為引渡方請求シ来リタルニ付右取消方ニ関シ佐藤大使ニ稟請ノ件

第三九号

往電第三四号ニ関スル報告ノ写真結婚婦人五名及其後ノ渡来者ニシテ同様ノ手続ニテ仮入国ヲ許サレタルモノニ関シ左ノ通在米日本大使ヘ電報シタリ尚同電報中我主張トハ移民官ニ於テ我結婚届乃至結婚ノ適否迄立入リテ穿鑿セズ是等婦人ノ携帶シ来リタル結婚届膳本ヲ結婚証拠トシテ認メシムルコトヲ指ス

第五一号

写真結婚婦人ニシテ本官監視ノ下ニ仮入国ヲ許サレタルモノノ正式入国方ニ関シテハ隨時電報及公信ヲ以テ稟申シ置

ラズ自然成年後ニ成立シタル養子縁組ノ一般的効力ニ関スル根本問題ニ立入ルコトトナリ解決容易ナラザルヘキニ付此点ニ関シテハ追テ写真結婚婦人問題ノ解決後更ニ交渉スルコトトシ差当リノ措置トシテハ未成年中ニ成立シタル養子縁組ニ非ザル限り当該養父母又ハ養子女ノ旅券ヲ発給セザルコトトセラレタシ

六三 七月七日 本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

写真結婚婦人及夫ト同行セザル妻ノ携行書類ニ関スル件

第二一七号

貴電第二三五号ニ関シ写真結婚婦人其他夫ト同行セザル妻女ノ携帶スヘキ書類ニ付テハ至急往電第一六六号所載当方ノ希望貫徹スル様交渉ノ上結果電報アリタシ

註 前掲五〇文書

六四 七月十三日 在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人等ノ携行書類ニ関シ交渉中ナル件

一 米国民法制定及修正一件 六三 六四 六五

キタル通りナル処今回当地移民局へ労働省ヨリ是等婦人ノ夫ハ日本法律ノ規定ニ從ヒ自身結婚ヲ届出タルモノニアラズ其結婚ハ合法ナラザル故該婦人入国上須要条件タル結婚証拠ト認ムルコトヲ得ザルニ付該婦人ヲ本官ヨリ取戻シ至急日本へ送還スヘキ旨訓令アリタル趣ニテ今二十六日移民局ヨリ右婦人引渡方本官へ請求アリタリ然ルニ本件ハ貴方ニ於テ中央当局ト御交渉中ノ案件ナリト心得居ルニ付(六月三十日公信第四一號参照)右請求ニ對シテハ貴大使へ問合セノ上回答スヘキ旨一応申送ル手筈中ナルカ米國官憲ニ於テ前記ノ如キ解釈ヲ取ルニ於テハ写真結婚婦人ノ大多數ハ上陸ヲ拒絕セラルヘキノミナラズ我國ニテ適法ト認メ居ル結婚ヲ不法ナリト判定スル如キ不都合千万ヲ來タシ影響スル所甚タ重大ナルニ付至急右労働省訓令取消方竝我方主張貫徹方御配慮ヲ請フ尚ホ何分ノ義御回示アリタシ

六六 七月二十九日 在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

条件付入国ノ写真結婚婦人ハ從來通り仮入国ノコトニ取計ヒタル旨佐藤大使通報ノ件

第四〇號

在米大使宛本官宛電報第四七號

貴電第五一號ノ件労働務省ニ交渉ノ結果目下商議中ノ根本問題決定迄從來ノ通貴官監視ノ下ニ仮入国セシメ置クヘキ旨同省ヨリ貴地移民官ニ訓令スルコトニ取計ヒ置キタリ尚右仮入国セル數、其内教育試験ヲ受ケタルモノノ數竝之ニ合格セザリシモノノ數及其夫カ自身結婚届ニ署名又ハ捺印セズト述ベタルモノノ數等取調回電アリタク今後増加ノ分モ同様隨時電報アリタシ

六七 七月二十九日 在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

条件付入国ノ写真結婚婦人ノ數其他二関シ佐藤大使二回報ノ件

第四一號

本官発在米大使宛電報第五二號

貴電第四七號後段ニ関シ從來本官監視ノ下ニ仮入国セルモノ總計二十六名ニシテ總テ教育試験ヲ課セラレタルカ全部合格セリ是等ノモノハ總テ其夫カ結婚届ニ署名又ハ捺印セズト述ヘタルニ依リ入国拒絕ノ判決ヲ受ケ居ル次第ナリ尚最近同一理由ニテ入国ヲ拒絕セラレ留置中ノモノ十三名就

テハ貴電ニ依リ今二十八日移民局ト交渉シタルニ既ニ仮入国シタル分ノ引渡請求ハ中央移民局ノ電訓ニ依リ直ニ之ヲ取消スガ目下留置中ノ分ハ今一応労働省ニ電稟シタル上從前通仮入国手續ヲ執ルヘキ旨回答セリ

往電第五一號貴電第四七號及本電大臣へ転電セリ

六八 七月三十一日 在シアトル松永領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

移民局留置ノ婦人仮入国許可ノ件

第四二號

本官発在米大使宛電報第五三號

往電第五二號ニ関シ留置中ノモノ十四名(前電十三名ノ外ニ一名追加アリタリ)ニ對シ三十日移民局ハ仮入国ヲ許セリ

大臣へ転電済

六九 八月一日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ携行スヘキ書類中結婚届認

証謄本二関スル件

第二七九號

写真結婚婦人ノ携帶スヘキ書類ニ付テハ貴電第一六六號ノ

一 米國移民法制定及修正一件 六八 六九 七〇

七〇 八月三日 本野外務大臣ヨリ
在米國佐藤大使宛(電報)

趣旨ニ依リ戸籍謄本ノミカ又ハ已ムヲ得ザレハ結婚事實証明書ヲ之ニ加フルコトニ交渉中ナルハ御承知ノ通ナル処先方ノ態度執拗ニシテ其間ニ「シアトル」ニ於テ写真結婚ノ夫カ届書ニ署名又ハ捺印セザリシコトヲ陳述スルモノ続々アリ益々事態ヲ紛糾セシメ今日迄尚ホ解決ヲ告クルニ至ラザルハ遺憾ノ次第ナルガ最近在桑港総領事ノ電報ニ依レハ(右電報ハ貴方へ転電セシメ置キタリ)同地ニ上陸スル写真結婚婦人ハ結婚届ノ認証謄本ヲ持參シ故障ナク入国ヲ許可セラレ居ル模様ナルノミナラス去五月ノ司法省訓令第一號ハ引続キ実行シツツアリナガラ他方其筋ニ對シ右発給ノ困難ヲ述ブルハ聊カ矛盾ノ感アリテ我主張ヲ薄弱ナラシムルト思考セラルルニ付若シ實際上右認証謄本ノ発給カ格別困難ナラザル義ナラバ貴電第一九〇號御記載ノ結婚後多クノ年數ヲ經過シタルモノニ付テハ別ニ特例ヲ設ケシムルコトトシ原則トシテ該認証謄本ヲ提出セシムルコトニ折合フ訳ニハ行カザルベキヤ今一応御再考ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

写真結婚婦人ノ結婚届認証膳本発給事情説明

並右発給ヲ要セザル様交渉方訓令ノ件

第二四七号

貴電第二七九号ニ関シ結婚届認証膳本発給ノコトハ多数ノ写真結婚婦人カ単ニ右膳本ヲ得ルコト能ハザルガ為メ渡米シ得ザル実状ニ鑑ミ司法省ト交渉ノ末応急ノ手段トシテ当分ノ内便宜ノカ発給方ヲ実行シ其間ニ右提出ヲ要セサル様米国政府ト話ヲ纏ムヘシト了解ノ下ニ同省ニ於テ当該官憲ニ発訓スルニ至リシ次第ナルニ付往電第一六六号所載当方ノ希望貫徹スル様御尽力アリタシ

七一

八月二十二日

在米国佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

写真結婚婦人ノ入国問題我主張ノ通解決ノ件

第三〇九号

写真結婚婦人入国問題ノ件ニ関シ七月二十五日付機密第六九号附属公文ニ対シ二十一日國務省ヲ経テ労働務省ヨリ回答アリ其要領ハ従来本件ニ就キ交渉ヲ重ネタル理由ヲ説述シタル後右公文ニ依リテ同省ニ於テハ従来ノ疑義全ク氷解シ最早本件ニ付何等詮議スルヲ要セズ当事者結婚ノ事実ヲ

記載セル戸籍膳本ノ提出ノミヲ以テ充分ナリト認ムルニ付其旨直ニ地方移民官ニ訓達スヘク又目下「シアトル」等ニテ懸案中ノモノモ右膳本ノ提出ニ依リテ正式ニ入国セシム

ヘシ本件カスノ如ク隔意ナキ意見ノ交換ニ依リ満足ノ解決ヲ見タルハ誠ニ双方ノ論議ノ徒勞ナラザリシヲ証スルモノニテ欣快ノ至リニ堪ヘズ右ニ依リ米国政府ニ於テモ写真結婚婦人等ノ称呼ハ不当ニシテ今後ハ此等ノ婦人モ一般ノ場合ト同シク単ニ妻ト呼フノ適當ナルヲ認識スルニ至レリ云々トアリテ其断案ノ公平ナルハ勿論其論調ノ卒直真摯ナルハ本使ニ於テ特ニ満足トスル処ナリ就テハ先方ノ態度ニ鑑ミ右ニ対シ時ヲ移サズ國務省ヲ経テ帝國政府ヨリ相当表謝ノ意ヲ伝ヘラルルコト然ルヘシト思考セラルルニ付御異議ナクハ如何ナル程度ニ申入ルヘキヤ回電アリタシ

七二

八月二十四日

本野外務大臣ヨリ
在米国佐藤大使宛(電報)

写真結婚婦人ノ入国問題解決ニ際シ米国当局

ニ謝意表明ノ件

第二七六号

貴電第三〇九号ニ関シ米国政府ニ於テ隔意ナキ意見交換ノ

結果我方ノ主張ヲ容レ茲ニ本問題ノ解決ヲ見ルニ至リタル

ハ帝國政府ノ甚タ満足トスル所ナリト趣旨ヲ以テ可然申

入レアリタシ